

## . 子育て全般について

---



## 子育て全般についての調査結果要旨

### 1. 子どもを持つときの不安について

将来的に子どもを（さらに）持つと考えた時の不安は、「経済的負担の増加」、「仕事と生活・育児の両立」、「不安定な雇用、就業関係」、「保育所などの保育サービスの不足」、「出産年齢・子どもを持つ年齢」の順となっている。

子育てにかかる経済的な負担として大きいものは、「学校教育費（大学・短大・専門学校など）」、「学習塾など学校以外の教育費」、「保育所・幼稚園・認定こども園にかかる費用」となっている。

（P25、30 参照）

### 2. 保育サービスについて

保育サービス利用者についてみると、約45%が利用している保育サービスに満足しているが、満足している割合は、幼稚園よりも保育所の方が高い。一方、利用している施設に満足していない理由としては、「利用料が高いから」が多く、幼稚園では、「子どもを預ける時間が短いから」が多い。また、希望した時期に希望したサービスを利用できた割合については、保育所が57.6%であるのに対し、幼稚園が50.5%と幼稚園の方が低くなっている。

さらに今後利用したい保育サービスは、「延長保育」が最も多く、次いで「一時保育」、「病児・病後児保育」となっている。（P37～41 参照）

### 3. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

子どもがいる人のうち、仕事と子育ての両立ができている人は37.5%となっているが、女性では、子どもの年齢が低いほど、両立できない人が多い。

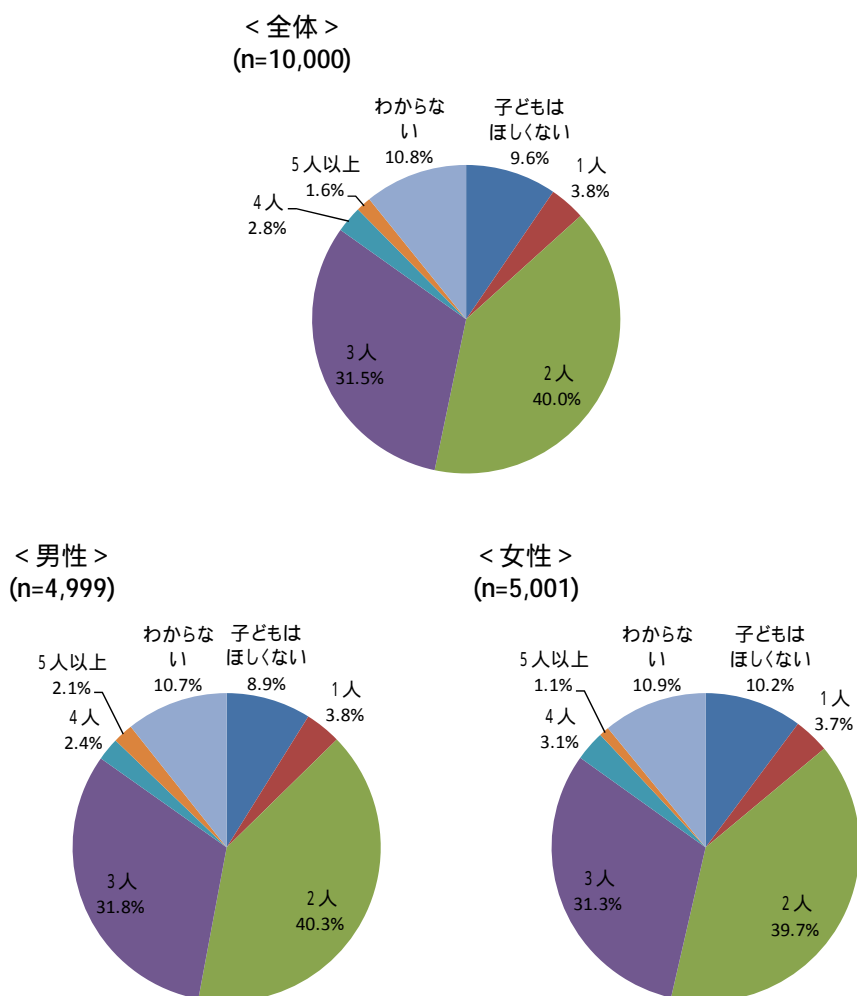
また、就業している人を対象に仕事時間は希望と比べてどうか質問したところ、半分程度は「ちょうどよい」と考えているが、「長すぎる」、「やや長い」との回答も約4割となっている。女性よりも男性で、仕事時間が長すぎると回答した割合が高い。

（P46～47 参照）

## 1. 理想的な子どもの数について

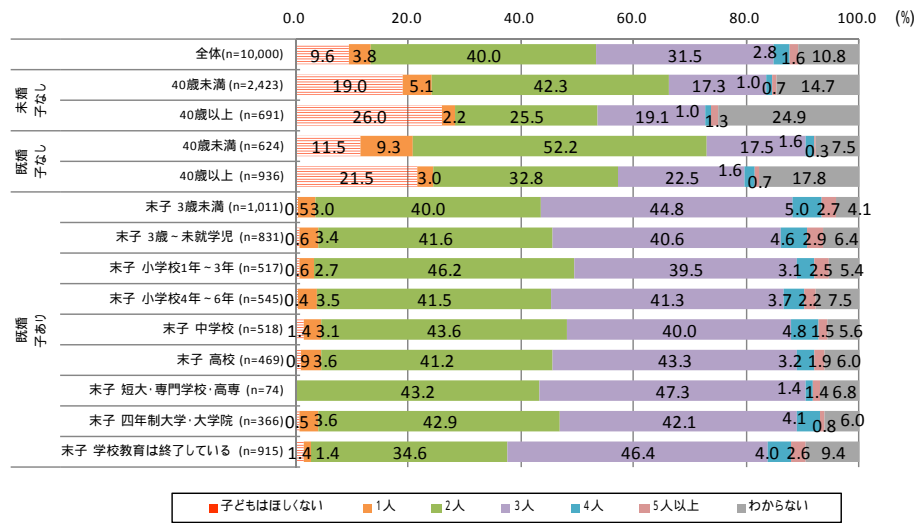
理想的な子どもの数について質問したところ、「2人」が40.0%と最も高く、次いで「3人」が31.5%、「わからない」が10.8%、「子どもはほしくない」が9.6%となっている。

男女別にみると、比率に大きな差異はみられない。



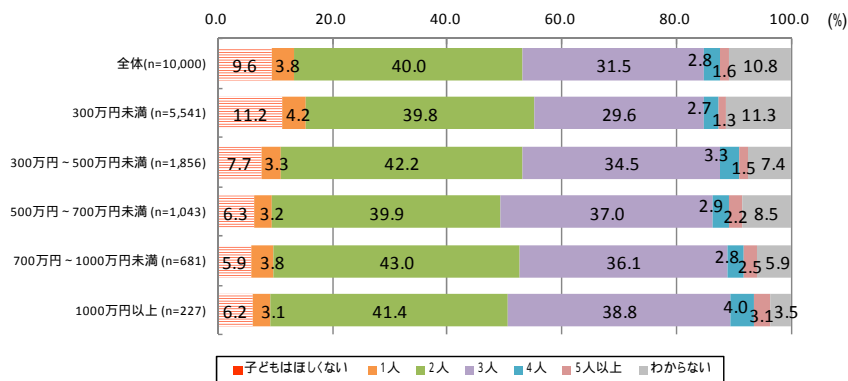
ライフステージ別にみると、「子どもはほしくない」と考える割合は、未婚子なし、既婚子なしで多くなっている。一方で、既婚子ありは、末子の学年が高くなるほど「3人」を希望する割合が高くなっている。

ライフステージ別



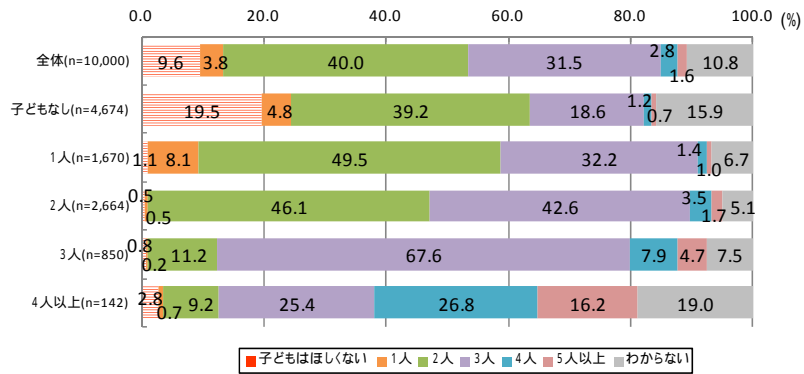
年収別でみると、「子どもはほしくない」割合は、300万円未満で11.2%と最も高くなっており、年収が上がるにつれ「子どもはほしくない」割合は減少傾向にある。

年収別



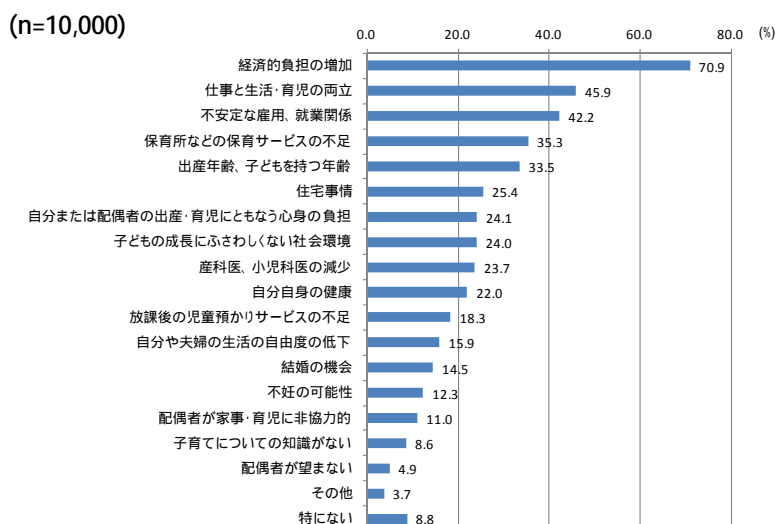
子どもの数別でみると、「子どもはほしくない」割合は、子どもなしで 19.5%と最も高くなっている。

子どもの数別



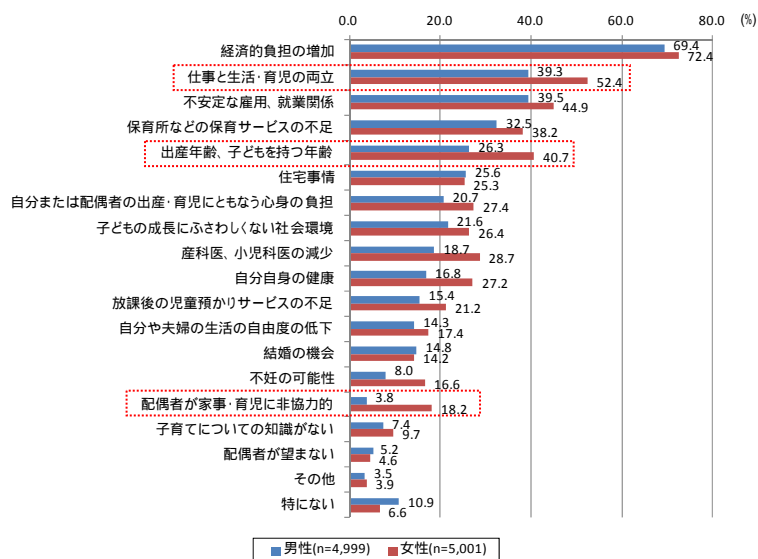
## 将来的に子どもを(さらに)持つと考えた時の不安

将来的に子どもを(さらに)持つと考えた時の不安を質問したところ、「経済的負担の増加」(70.9%)が最も高く、次いで「仕事と生活・育児の両立」(45.9%)、「不安定な雇用、就業関係」(42.2%)、「保育所などの保育サービスの不足」(35.3%)、「出産年齢、子どもを持つ年齢」(33.5%)となっている。



男女別にみると、全般的に女性は男性に比べ高くなっているが、特に「配偶者が家事・育児に非協力的」や「出産年齢、子どもを持つ年齢」、「仕事と生活・育児の両立」については女性の方が男性に比べ10%以上高くなっている。

### 男女別



将来的に子どもを(さらに)持つと考えた時の不安

ライフステージ別にみると、未婚子なし/40歳未満は他の属性に比べ「子育てについての知識がない」(20.0%)が高くなっている。また、既婚子なし/40歳未満、既婚子あり/末子3歳未満は、他の属性に比べ「保育所などの保育サービスの不足」が高く(それぞれ、47.4%、49.7%)、また、既婚子あり/末子3歳未満は「住宅事情」(35.4%)が高くなっている。

ライフステージ別

		経済的負担の増加	仕事と生活・育児の両立	不安定な雇用、就業関係	保育所などの保育サービスの不足	出産年齢、子どもを持つ年齢	住宅事情	自分または配偶者の出産・育児にもなう心身の負担	子どもの成長にふさわしくない社会環境	産科医、小児科医の減少	自分自身の健康	放課後の児童預かりサービスの不足	自分や夫婦の生活の自由度の低下	結婚の機会	不妊の可能性	配偶者が家事・育児に非協力的	子育てについての知識がない	配偶者が望まない	その他	特にない
全体(n=10,000)		70.9	45.9	42.2	35.3	33.5	25.4	24.1	24.0	23.7	22.0	18.3	15.9	14.5	12.3	11.0	8.6	4.9	3.7	8.8
未婚子なし	40歳未満(n=2,423)	65.2	48.6	42.2	37.9	33.3	21.7	25.6	23.4	19.6	21.9	16.7	20.8	32.6	16.3	12.4	20.0	5.0	4.2	12.7
	40歳以上(n=691)	59.6	37.9	43.3	26.0	38.6	18.5	18.1	20.5	22.6	26.9	11.9	10.4	30.4	12.0	6.8	8.4	2.0	6.2	14.9
既婚子なし	40歳未満(n=624)	72.4	52.4	38.8	47.4	38.5	27.9	34.1	25.5	25.0	23.2	22.3	25.2	3.4	31.1	9.1	12.8	3.5	2.7	6.1
	40歳以上(n=936)	58.1	37.9	39.4	30.4	32.1	19.6	20.4	26.4	22.4	23.5	14.3	12.4	6.3	16.2	7.3	6.4	5.0	6.1	11.9
既婚子あり	末子 3歳未満(n=1,011)	82.0	53.8	40.3	49.7	31.4	35.4	33.5	23.6	25.8	19.4	27.5	21.4	2.5	10.5	10.7	3.2	4.8	2.0	4.0
	末子 3歳-未就学児(n=831)	79.3	46.5	39.1	36.3	37.7	30.0	30.8	23.0	25.0	22.9	25.4	16.8	3.6	9.7	12.4	2.0	7.1	3.7	5.2
	末子 小学校1年-3年(n=517)	80.9	44.7	39.5	25.1	41.6	29.6	29.2	23.6	25.3	23.0	19.7	17.2	4.6	8.9	13.3	2.7	7.0	2.7	5.4
	末子 小学校4年-6年(n=545)	77.8	45.1	41.3	25.7	37.1	28.4	24.2	22.2	21.7	23.7	14.7	10.1	5.5	4.6	10.6	3.1	5.9	3.5	5.7
	末子 中学校(n=518)	76.8	45.9	45.9	27.6	33.4	26.8	19.9	21.8	23.2	21.8	15.3	11.2	7.7	7.5	14.5	2.5	5.6	2.3	6.8
	末子 高校(n=469)	77.4	40.3	45.0	28.1	25.6	25.6	16.2	24.5	21.1	23.7	16.4	10.0	8.5	6.8	13.0	3.6	5.8	3.2	6.6
	末子 短大・専門学校・高専(n=74)	71.6	43.2	59.5	28.4	39.2	20.3	14.9	18.9	28.4	18.9	20.3	6.8	21.6	6.8	10.8	4.1	2.7	1.4	6.8
	末子 四年制大学・大学院(n=366)	68.3	39.9	47.5	27.6	23.8	22.1	11.5	23.0	27.6	16.4	13.7	8.7	10.4	6.3	9.8	2.5	5.2	1.9	9.6
末子 学校教育は終了している(n=915)	71.3	45.2	45.8	38.4	27.1	26.2	14.6	28.1	31.8	17.7	17.7	9.4	12.3	5.4	11.1	5.2	3.0	2.4	7.2	

年収別でみると、「経済的負担の増加」は年収が多くなるほど割合は低くなっているが、1000万円以上でも52.0%となっている。また、年収が少ない方が不安に感じている項目が多くなっており、1000万円以上は「特にない」が14.5%と高くなっている。

年収別

		経済的負担の増加	仕事と生活・育児の両立	不安定な雇用、就業関係	保育所などの保育サービスの不足	出産年齢、子どもを持つ年齢	住宅事情	自分または配偶者の出産・育児にもなう心身の負担	子どもの成長にふさわしくない社会環境	産科医、小児科医の減少	自分自身の健康	放課後の児童預かりサービスの不足	自分や夫婦の生活の自由度の低下	結婚の機会	不妊の可能性	配偶者が家事・育児に非協力的	子育てについての知識がない	配偶者が望まない	その他	特にない
全体(n=10,000)		70.9	45.9	42.2	35.3	33.5	25.4	24.1	24.0	23.7	22.0	18.3	15.9	14.5	12.3	11.0	8.6	4.9	3.7	8.8
300万円未満(n=5,541)		72.9	49.8	46.9	36.0	36.0	25.2	26.6	25.0	25.7	25.2	18.4	17.5	16.5	14.9	15.0	10.7	5.2	4.0	7.9
300万円～500万円未満(n=1,866)		73.9	46.4	38.6	39.1	31.3	27.2	22.1	21.7	21.4	17.3	21.1	15.4	12.8	10.3	5.8	6.1	4.1	3.0	7.0
500万円～700万円未満(n=1,043)		68.9	40.4	35.3	32.3	31.2	26.2	21.3	21.2	21.1	17.6	17.9	14.3	10.5	9.1	5.3	5.7	5.0	2.7	9.6
700万円～1000万円未満(n=681)		67.5	34.4	31.7	29.5	28.9	25.7	19.1	23.9	19.2	15.4	16.3	9.8	9.1	6.0	3.7	3.8	5.7	2.6	9.4
1000万円以上(n=227)		52.0	32.2	29.1	35.2	26.0	23.8	17.6	25.6	20.3	16.7	15.0	13.7	7.9	5.3	7.5	4.4	5.7	4.4	14.5



将来的に子どもを(さらに)持つと考えた時の不安

子どもの数別で見ると、他の属性に比べて、子どもなしでは「結婚の機会」(23.1%)、「不妊の可能性」(17.6%)、「子育てについての知識がない」(14.6%)が高く、子ども1人では「保育所などの保育サービスの不足」(41.4%)「出産年齢、子どもを持つ年齢」(39.1%)「放課後の児童預かりサービスの不足」(24.8%)が高くなっている。

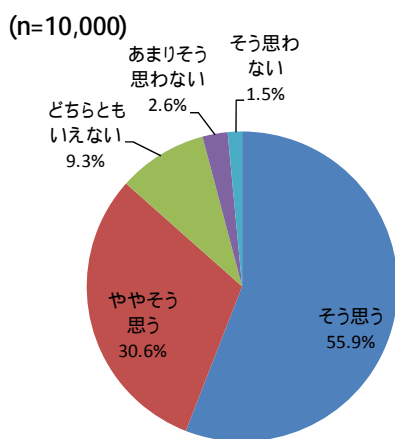
子どもの数別

	経済的負担の増加	仕事と生活・育児の両立	不安定な雇用、就業関係	保育所などの保育サービスの不足	出産年齢、子どもを持つ年齢	住宅事情	自分または配偶者の出産・育児にともなう心身の負担	子どもの成長にふさわしくない社会環境	産科医、小児科医の減少	自分自身の健康	放課後の児童預かりサービスの不足	自分や夫婦の生活の自由度の低下	結婚の機会	不妊の可能性	配偶者が家事・育児に非協力的	子育てについての知識がない	配偶者が望まない	その他	特になし
全体 (n=10,000)	70.9	45.9	42.2	35.3	33.5	25.4	24.1	24.0	23.7	22.0	18.3	15.9	14.5	12.3	11.0	8.6	4.9	3.7	8.8
子どもなし (n=4,674)	63.9	45.4	41.3	35.9	34.6	21.6	24.6	23.9	21.3	23.1	16.2	18.1	23.1	17.6	10.1	14.6	4.4	4.7	12.0
1人 (n=1,670)	77.5	48.3	43.4	41.4	39.1	28.1	28.9	24.6	25.1	21.8	24.8	16.5	5.4	13.0	11.9	2.9	5.7	3.3	5.1
2人 (n=2,664)	75.9	44.5	42.1	31.4	29.7	27.6	21.4	23.7	24.5	20.6	18.5	12.8	7.0	5.0	11.4	3.4	5.2	2.6	6.5
3人 (n=850)	79.6	47.3	44.5	31.9	30.5	32.5	20.7	24.6	29.8	20.9	15.9	12.5	8.9	6.0	12.8	3.5	4.5	2.6	5.5
4人以上 (n=142)	75.4	50.0	44.4	38.0	23.2	36.6	20.4	24.6	31.7	18.3	23.9	10.6	9.2	5.6	10.6	3.5	8.5	1.4	7.7

## 2. 経済的支援について

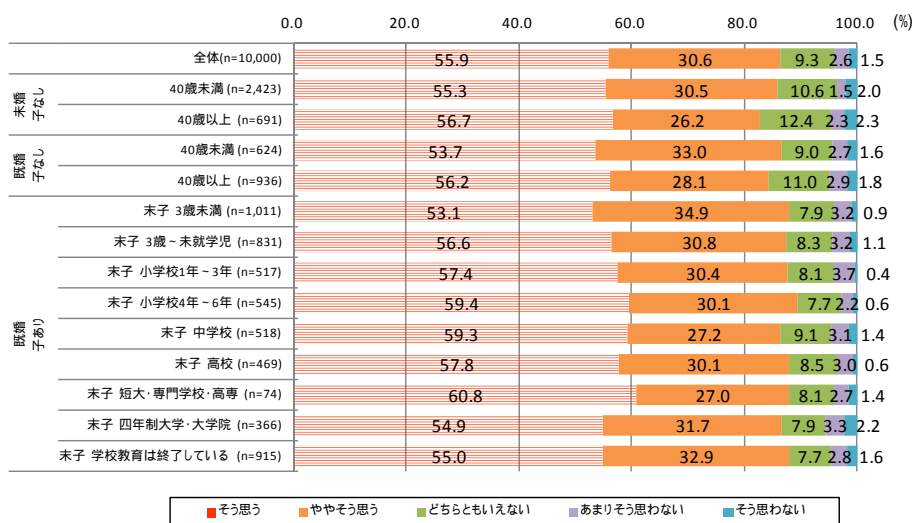
### 将来的に子育てをすることの経済的負担

「将来的に子育てをすることは、大きな経済負担がかかると思うか」と質問したところ、「そう思う」が半数以上で 55.9%と最も多く、次いで「ややそう思う」(30.6%)、「どちらともいえない」(9.3%)、「あまりそう思わない」(2.6%)となっている。

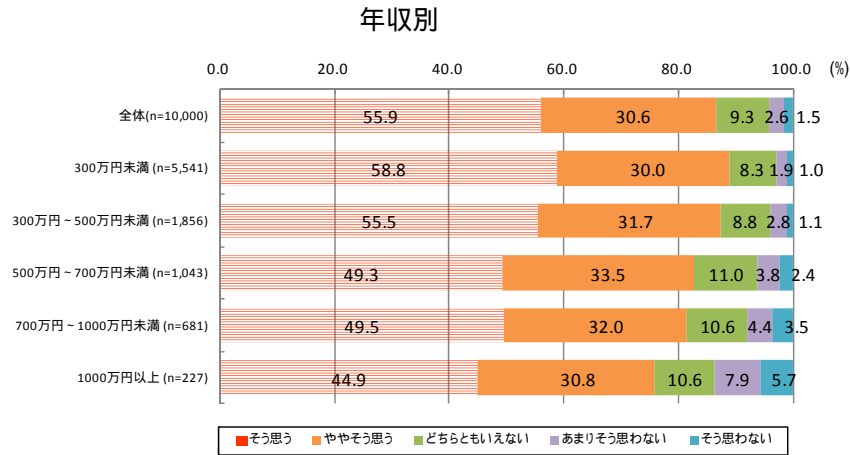


ライフステージ別にみると、そう思う割合(「そう思う」と「ややそう思う」の計)は、既婚子あり/末子小学校4年~6年で 89.5%と最も高くなっている。

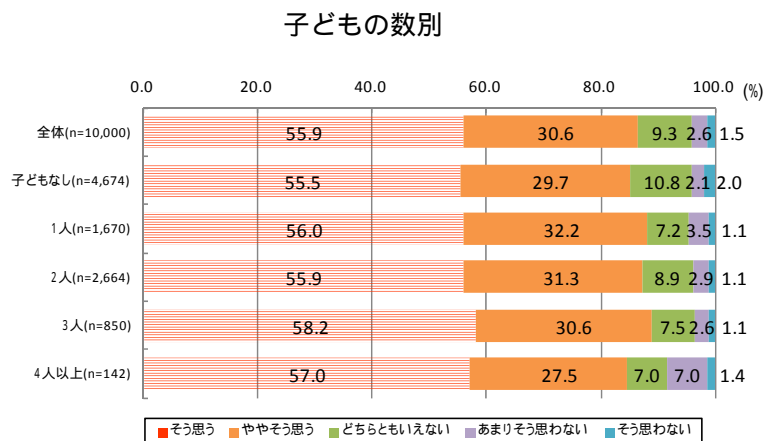
#### ライフステージ別



年収別でみると、そう思う割合（「そう思う」と「ややそう思う」の計）は、300万円未満で88.8%と最も高くなっている。また、年収が高くなるにつれて、そう思う割合は低くなっている。

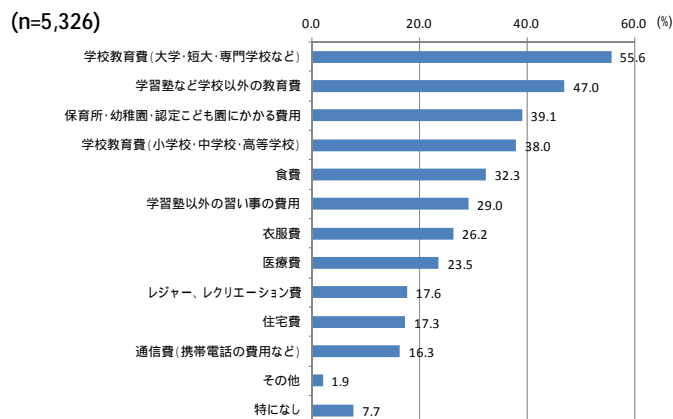


子どもの数別でみると、そう思う割合（「そう思う」と「ややそう思う」の計）は、3人で88.8%と最も高く、次いで、1人(88.2%)、2人(87.2%)となっている。一方で、そう思わない（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計）の回答は、4人以上で8.4%と最も高くなっている。



## 現在、子育てにかかる経済的な負担

子どもがいる人を対象に、「子育てにかかる経済的な負担として大きいと思われることは何か」と質問したところ、「学校教育費（大学・短大・専門学校など）」（55.6%）が最も高く、次いで「学習塾など学校以外の教育費」（47.0%）、「保育所・幼稚園・認定こども園にかかる費用」（39.1%）となっている。



ライフステージ別にみると、既婚子ありで末子が高校～四年制大学・大学院では「学校教育費（大学・短大・専門学校など）」が高く、小学校～中学校では「学習塾など学校以外の教育費」が高く、未就学児では「保育所・幼稚園・認定こども園にかかる費用」が高くなっている。

### ライフステージ別

		学校教育費 (大学・短大・専門学校など)	学習塾など 学校以外の 教育費	保育所・幼 稚園・認定 こども園に かかる費用	学校教育費 (小学校・中 学校・高等 学校)	食費	学習塾以外 の習い事の 費用	衣服費	医療費	レジャー、レ クリエーショ ン費	住宅費	通信費(携 帯電話の費 用など)	その他	特になし
全体(n=5,326)		55.6	47.0	39.1	38.0	32.3	29.0	26.2	23.5	17.6	17.3	16.3	1.9	7.7
既婚 子あり	末子 3歳未満 (n=1,011)	44.8	36.9	62.6	35.1	40.9	30.5	37.8	22.0	24.8	20.0	14.6	2.8	7.3
	末子 3歳～未就学 児 (n=831)	39.8	41.2	65.8	37.5	38.6	37.8	33.7	26.6	25.9	20.8	11.4	1.8	5.8
	末子 小学校1年～3 年 (n=517)	47.0	57.1	30.4	47.2	39.1	42.4	32.9	25.7	26.1	16.6	14.9	1.7	4.8
	末子 小学校4年～6 年 (n=545)	53.4	63.3	24.0	45.9	37.1	36.1	27.3	27.9	16.0	15.4	16.1	1.5	3.7
	末子 中学校 (n=518)	59.7	61.0	21.4	53.9	34.4	26.3	24.7	23.0	15.8	16.4	23.4	2.5	4.4
	末子 高校 (n=469)	72.9	48.8	19.0	42.9	24.9	17.3	20.5	21.3	6.8	16.2	21.5	1.7	5.3
	末子 短大・専門学 校・高等 (n=74)	86.5	33.8	27.0	28.4	18.9	24.3	17.6	14.9	12.2	14.9	31.1	2.7	2.7
	末子 四年制大学・ 大学院 (n=366)	86.6	40.7	18.0	21.0	18.3	17.8	11.5	17.8	6.6	16.1	19.4	1.6	4.6
	末子 学校教育は終 了している (n=915)	61.4	43.1	33.2	28.4	20.0	21.0	13.4	23.1	9.9	14.5	14.0	1.4	18.0

現在、子育てにかかる経済的な負担

年収別でみると、「学校教育費（大学・短大・専門学校など）」は700万円～1000万円未満で64.7%と最も高く、次いで500万円～700万円未満(58.7%)、1000万円以上(58.2%)となっている。また、700万円以上では、「食費」よりも「学習塾以外の習い事の費用」の割合が高くなっている。

年収別

	学校教育費 (大学・短大・専門学校など)	学習塾など 学校以外の 教育費	保育所・幼 稚園・認定こ ども園にかか る費用	学校教育費 (小学校・中 学校・高等 学校)	食費	学習塾以外 の習い事の 費用	衣服費	医療費	レジャー、レ クリエーショ ン費	住宅費	通信費(携 帯電話の費 用など)	その他	特になし
全体(n=5,326)	55.6	47.0	39.1	38.0	32.3	29.0	26.2	23.5	17.6	17.3	16.3	1.9	7.7
300万円未満 (n=2,628)	53.6	47.2	39.7	37.1	36.4	31.7	30.2	25.9	19.5	19.1	18.3	2.6	7.2
300万円～500万円未 満(n=1,014)	53.4	42.7	47.1	40.5	32.8	26.4	27.2	24.8	18.6	18.2	15.8	1.3	5.5
500万円～700万円未 満(n=699)	58.7	51.4	37.2	40.6	27.5	26.0	20.5	19.5	15.5	13.3	12.9	1.3	7.6
700万円～1000万円未 満(n=527)	64.7	50.3	33.2	37.8	23.3	27.7	18.6	19.9	13.5	13.1	13.7	0.9	9.5
1000万円以上 (n=182)	58.2	51.6	23.1	32.4	20.9	29.7	16.5	13.7	11.5	13.7	12.6	0.0	14.3

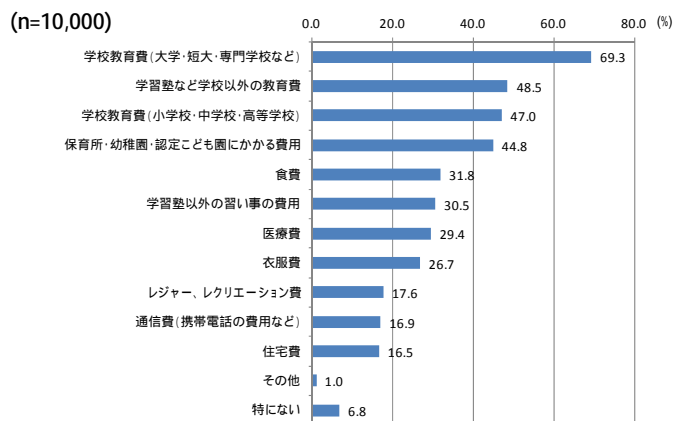
子どもの数別でみると、「学校教育費（大学・短大・専門学校など）」は3人で57.6%と最も高くなっている。また、「食費」は4人以上で51.4%と高くなっている。

子どもの数別

	学校教育費 (大学・短大・専門学校など)	学習塾など 学校以外の 教育費	保育所・幼 稚園・認定こ ども園にかか る費用	学校教育費 (小学校・中 学校・高等 学校)	食費	学習塾以外 の習い事の 費用	衣服費	医療費	レジャー、レ クリエーショ ン費	住宅費	通信費(携 帯電話の費 用など)	その他	特になし
全体(n=5,326)	55.6	47.0	39.1	38.0	32.3	29.0	26.2	23.5	17.6	17.3	16.3	1.9	7.7
1人(n=1,670)	55.2	47.7	44.3	39.5	30.7	32.6	29.9	21.7	19.3	17.2	15.3	2.3	8.0
2人(n=2,664)	55.3	47.3	36.4	35.7	30.4	28.3	23.7	23.5	16.5	16.2	15.6	1.8	8.0
3人(n=850)	57.6	46.4	36.6	41.1	38.1	25.6	25.6	26.5	16.8	19.2	19.6	1.8	6.5
4人以上(n=142)	55.6	36.6	41.5	44.4	51.4	21.8	35.2	28.2	22.5	27.5	21.8	0.7	5.6

## 子育て全体を通じてかかる経済的な負担

「子育て全体にかかる経済的な負担として大きいと思われることは何か」と質問したところ、「学校教育費(大学・短大・専門学校など)」(69.3%)が最も高く、次いで「学習塾など学校以外の教育費」(48.5%)、「学校教育費(小学校・中学校・高等学校)」(47.0%)となっている。



ライフステージ別にみると、既婚子ありで末子が高校～四年制大学・大学院では「学校教育費(大学・短大・専門学校など)」が高くなっている。また小学校～中学校では、「学習塾など学校以外の教育費」が高く、未就学児では「保育所・幼稚園・認定こども園にかかる費用」が高くなっている。

### ライフステージ別

		学校教育費 (大学・短大・専門学校など)	学習塾など 学校以外の 教育費	学校教育費 (小学校・中 学校・高等 学校)	保育所・幼 稚園・認定 こども園に かかる費用	食費	学習塾以外 の習い事の 費用	医療費	衣服費	レジャー、レ クリエーション費	通信費(携 帯電話の費 用など)	住宅費	その他	特にない	(%)
全体(n=10,000)		69.3	48.5	47.0	44.8	31.8	30.5	29.4	26.7	17.6	16.9	16.5	1.0	6.8	
未婚 子なし	40歳未満 (n=2,423)	74.6	44.2	58.3	52.6	39.2	30.6	39.3	34.4	20.7	20.9	20.1	1.0	9.8	
	40歳以上 (n=691)	70.9	48.3	52.4	51.7	32.3	27.9	36.6	26.5	18.7	16.5	16.4	1.0	10.6	
既婚 子なし	40歳未満 (n=624)	74.8	50.0	58.2	60.1	37.2	36.1	40.5	34.3	24.5	20.5	18.4	0.5	5.8	
	40歳以上 (n=936)	71.5	49.8	49.1	52.2	31.4	29.4	33.7	27.4	16.3	14.6	10.4	0.7	9.1	
既婚 子あり	末子 3歳未満 (n=1,011)	59.5	43.1	43.3	62.1	35.0	34.6	22.6	31.1	21.7	15.5	19.2	1.0	3.7	
	末子 3歳～未就学 児(n=831)	50.7	44.3	40.1	59.0	32.0	36.1	23.3	26.8	21.3	11.6	19.1	1.2	5.1	
	末子 小学校1年～3 年(n=517)	61.7	57.3	45.6	28.6	31.7	41.8	23.0	28.6	22.8	14.3	14.9	1.2	3.3	
	末子 小学校4年～6 年(n=545)	62.0	58.7	44.8	22.2	31.2	31.4	23.7	21.7	13.8	13.8	13.8	1.7	3.5	
	末子 中学校 (n=518)	64.9	58.3	47.9	22.2	29.3	26.4	19.7	22.0	14.5	20.8	13.9	1.4	4.2	
	末子 高校 (n=469)	76.8	49.5	39.0	17.5	24.5	20.7	18.3	19.4	7.9	19.0	14.7	1.3	4.7	
	末子 短大・専門学 校・高専(n=74)	89.2	41.9	37.8	27.0	10.8	35.1	16.2	13.5	12.2	21.6	14.9	2.7	2.7	
	末子 四年制大学・ 大学院(n=366)	86.6	49.5	25.4	21.3	13.9	21.0	16.1	11.2	7.7	15.0	14.5	0.5	3.0	
	末子 学校教育は終 了している(n=915)	74.2	50.1	29.5	31.0	19.6	24.4	23.7	12.9	8.2	13.0	12.1	0.8	7.7	

子育て全体を通じてかかる経済的な負担

年収別でみると、ほとんどの項目において、年収が少ない方が経済的負担に感じている割合が高くなっているが、「学習塾など学校以外の教育費」、「学習塾以外の習い事の費用」においては、年収別で大きな差異がみられない。

年収別

	学校教育費 (大学・短大・専門学校など)	学習塾など 学校以外の 教育費	学校教育費 (小学校・中 学校・高等 学校)	保育所・幼 稚園・認定こ ども園にかか る費用	食費	学習塾以外 の習い事の 費用	医療費	衣服費	レジャー、レ クリエーショ ン費	通信費(携 帯電話の費 用など)	住宅費	その他	特にない	(%)
全体(n=10,000)	69.3	48.5	47.0	44.8	31.8	30.5	29.4	26.7	17.6	16.9	16.5	1.0	6.8	
300万円未満 (n=5,541)	70.7	49.1	49.3	47.6	35.7	31.8	33.0	30.5	19.8	18.3	17.9	1.1	5.7	
300万円～500万円未 満(n=1,856)	67.7	45.3	47.8	48.2	29.5	29.3	28.0	24.7	16.1	15.9	16.5	1.1	5.7	
500万円～700万円未 満(n=1,043)	68.6	50.8	44.0	39.2	24.7	26.9	20.4	18.5	13.8	13.7	12.6	0.8	7.6	
700万円～1000万円未 満(n=681)	68.4	50.2	36.7	32.2	22.3	28.9	19.4	18.2	12.0	13.1	12.0	0.4	8.5	
1000万円以上 (n=227)	63.0	51.5	36.1	25.1	18.9	31.7	14.5	14.1	14.5	11.9	14.1	0.4	13.2	

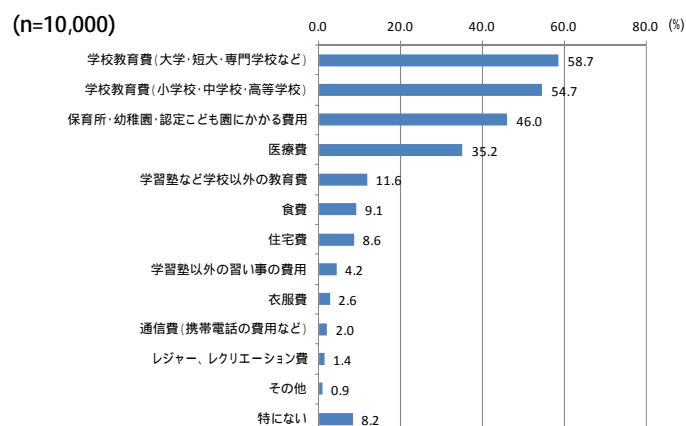
子どもの数別でみると、子どもなしでは「学校教育費(大学・短大・専門学校など)」が73.5%、「保育所・幼稚園・認定子ども園にかかる費用」が53.4%と高くなっている。

子どもの数別

	学校教育費 (大学・短大・専門学校など)	学習塾など 学校以外の 教育費	学校教育費 (小学校・中 学校・高等 学校)	保育所・幼 稚園・認定こ ども園にかか る費用	食費	学習塾以外 の習い事の 費用	医療費	衣服費	レジャー、レ クリエーショ ン費	通信費(携 帯電話の費 用など)	住宅費	その他	特にない	(%)
全体(n=10,000)	69.3	48.5	47.0	44.8	31.8	30.5	29.4	26.7	17.6	16.9	16.5	1.0	6.8	
子どもなし(n=4,674)	73.5	46.7	55.6	53.4	36.4	30.7	37.9	31.8	20.0	19.0	17.4	0.9	9.2	
1人(n=1,670)	66.0	50.5	42.2	43.2	25.7	33.3	21.9	23.8	16.9	14.3	16.2	1.3	4.9	
2人(n=2,664)	65.6	51.0	37.0	34.4	26.4	30.0	21.1	20.8	14.0	14.3	14.7	1.0	4.9	
3人(n=850)	66.0	48.1	41.1	35.5	33.4	27.2	24.0	23.5	15.6	18.4	17.9	1.4	3.5	
4人以上(n=142)	58.5	39.4	44.4	33.1	40.8	21.8	24.6	26.8	21.8	20.4	18.3	0.0	4.9	

## 子ども・子育て支援策としての経済的支援として望ましい支援

「子ども・子育て支援策としての経済的支援として望ましい支援と思われることは何か」と質問したところ、「学校教育費（大学・短大・専門学校など）」（58.7%）が最も高く、次いで「学校教育費（小学校・中学校・高等学校）」（54.7%）、「保育所・幼稚園・認定こども園にかかる費用」（46.0%）となっている。



ライフステージ別にみると、既婚子ありで末子が小学校以上では「学校教育費(大学・短大・専門学校など)」が最も高いが、末子が未就学児では「保育所・幼稚園・認定こども園にかかる費用」となっている。

### ライフステージ別

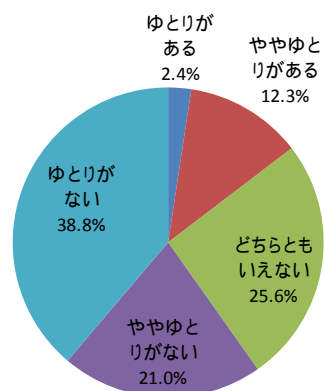
		学校教育費(大学・短大・専門学校など)	学校教育費(小学校・中学校・高等学校)	保育所・幼稚園・認定こども園にかかる費用	医療費	学習塾など学校以外の教育費	食費	住宅費	学習塾以外の習い事の費用	衣服費	通信費(携帯電話の費用など)	レジャー、レクリエーション費	その他	特になし	(%)
全体 (n=10,000)		58.7	54.7	46.0	35.2	11.6	9.1	8.6	4.2	2.6	2.0	1.4	0.9	8.2	
未婚子なし	40歳未満 (n=2,423)	57.1	57.0	47.4	34.4	8.3	9.8	7.3	3.1	2.5	1.9	1.1	0.5	12.0	
	40歳以上 (n=691)	49.8	55.6	50.9	40.4	5.6	9.6	6.5	1.7	1.7	1.4	0.9	0.9	13.9	
既婚子なし	40歳未満 (n=624)	58.2	63.5	57.9	39.7	7.7	7.4	8.5	4.0	2.6	1.4	1.8	0.5	6.7	
	40歳以上 (n=936)	48.2	53.3	49.3	35.8	6.8	8.5	5.9	2.6	2.6	1.2	0.6	1.3	13.7	
既婚子あり	末子 3歳未満 (n=1,011)	52.1	53.8	66.8	30.5	11.8	10.2	12.1	5.8	3.1	1.4	2.9	1.4	3.6	
	末子 3歳 - 未就学児 (n=831)	52.3	51.9	61.5	33.9	11.3	10.2	10.6	6.5	3.4	1.0	2.2	1.2	4.6	
	末子 小学校1年 - 3年 (n=517)	63.2	63.2	30.6	39.5	19.9	12.8	7.5	8.7	5.0	2.1	1.9	0.6	3.1	
	末子 小学校4年 - 6年 (n=545)	65.9	62.6	25.3	37.4	19.3	10.6	7.0	6.4	2.6	2.6	0.9	0.9	4.0	
	末子 中学校 (n=518)	65.8	59.3	20.5	34.6	24.9	9.1	9.3	5.0	3.7	4.4	1.2	1.0	4.4	
	末子 高校 (n=469)	76.8	48.6	24.5	29.9	15.6	8.5	10.2	3.2	2.8	4.1	0.4	1.3	5.8	
	末子 短大・専門学校・高専 (n=74)	79.7	40.5	27.0	20.3	12.2	2.7	8.1	6.8	1.4	5.4	2.7	2.7	6.8	
	末子 四年制大学・大学院 (n=366)	82.0	41.0	33.6	26.8	13.1	4.6	12.8	3.3	0.8	2.7	0.5	0.5	4.9	
	末子 学校教育は終了している (n=915)	61.9	45.6	44.5	39.8	13.1	6.6	9.0	3.6	1.5	2.2	1.1	0.7	8.1	



## 経済的なゆとり

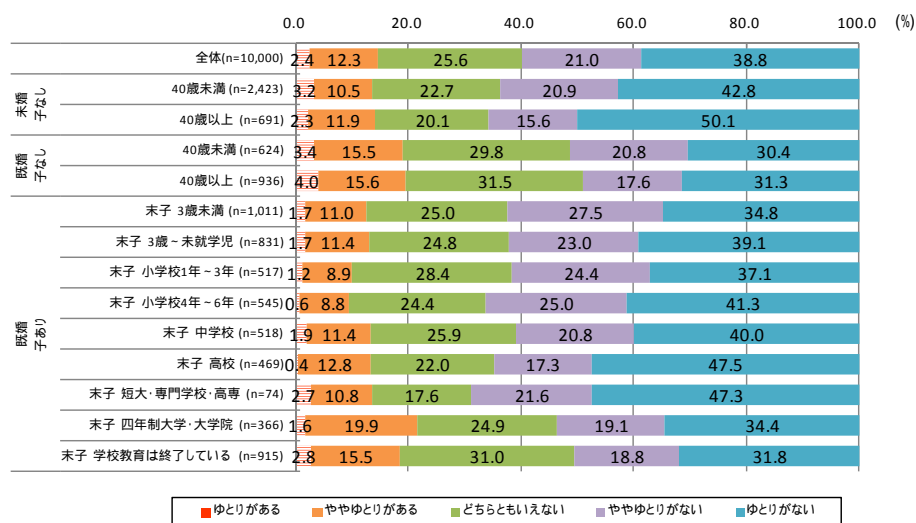
「経済的ゆとり」について質問したところ、「ゆとりがない」(38.8%)が最も高く、次いで「どちらともいえない」(25.6%)、「ややゆとりがない」(21.0%)となっている。

(n=10,000)



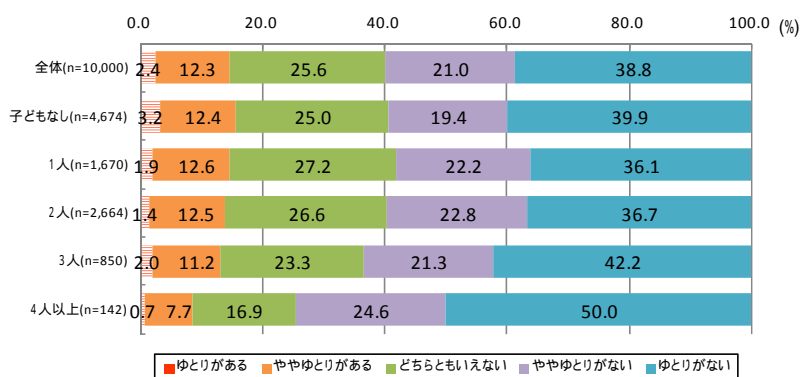
ライフステージ別にみると、ゆとりがある割合(「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」の計)は、既婚子あり/末子四年制大学・大学院で21.5%、既婚子なし40歳以上で19.6%となっている。一方、ゆとりがない割合(「ゆとりがない」と「ややゆとりがない」の計)は未婚子なし/40歳以上が65.7%と高く、これ以外では、既婚子ありにおいて末子年齢が中学校から、高校、短大、専門学校にかけて高くなっている。

### ライフステージ別



子どもの数別にみると、ゆとりがない割合(「ゆとりがない」と「ややゆとりがない」の計)は、子どもの人数が増えるほど高くなっている。

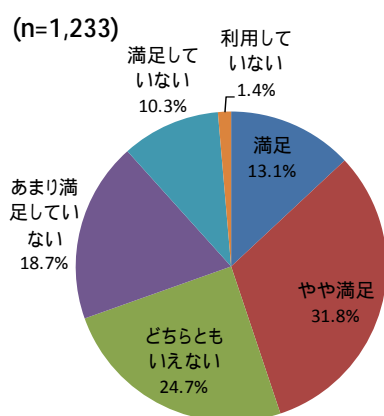
子どもの数別



### 3. 保育サービスについて

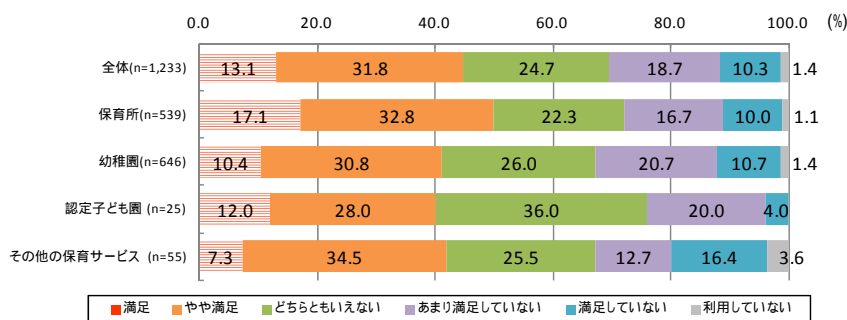
#### 利用しているサービスに対して総合的な満足度

保育サービス利用者を対象に、利用している保育サービス(利用時間・サービス内容・スタッフ・料金等)に対して総合的に満足しているか質問したところ、「やや満足」が31.8%と最も高く、次いで「どちらともいえない」(24.7%)、「あまり満足していない」(18.7%)となっている。

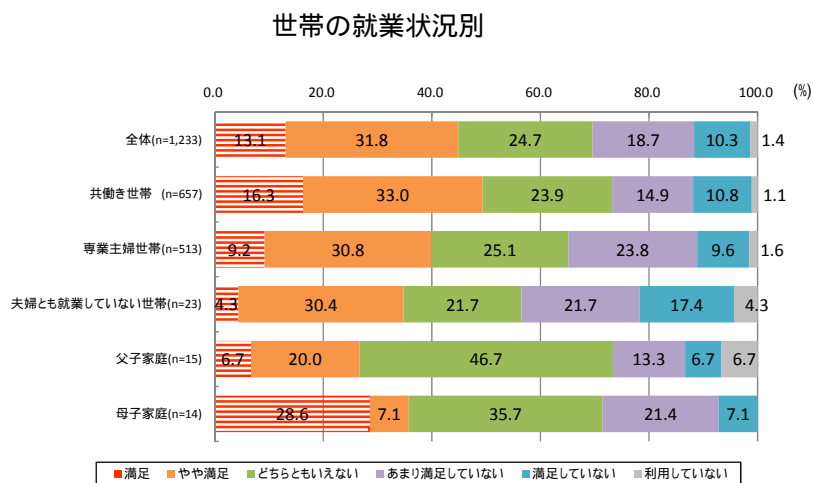


保育利用状況別でみると、満足している割合(「満足」と「やや満足」の計)は、保育所が49.9%と最も高く、幼稚園で41.2%となっている。

保育利用状況別

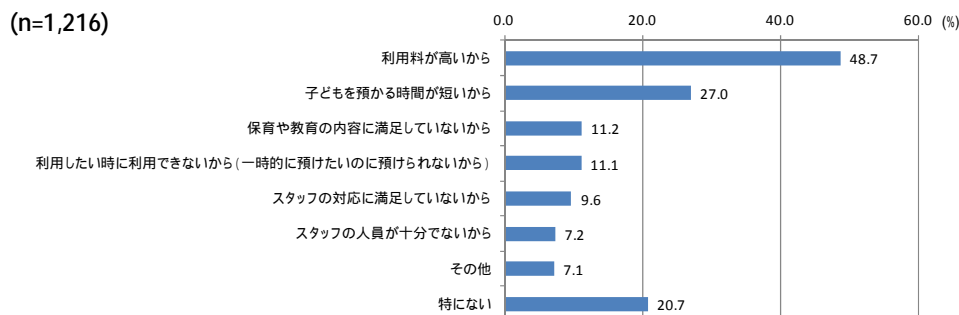


世帯の就業状況別でみると、満足している割合(「満足」と「やや満足」の計)は、共働き世帯で49.3%と、専業主婦世帯の40.0%より高くなっている。



## 利用している保育に満足していない点

保育サービス利用者を対象に、満足していない理由を質問したところ、「利用料が高いから」(48.7%)と最も高く、次いで「子どもを預かる時間が短いから」(27.0%)、「保育や教育の内容に満足していないから」(11.2%)となっている。



保育利用状況別でみると、いずれの保育利用状況(認定こども園を除く)についても「利用料が高いから」が最も高くなっている。また、幼稚園は、「子どもを預かる時間が短いから」が35.8%と高くなっている。

保育利用状況別

	利用料が高いから	子どもを預かる時間が短いから	保育や教育の内容に満足していないから	利用したい時に利用できないから(一時的に預けたいのに預けられないから)	スタッフの対応に満足していないから	スタッフの人員が十分でないから	その他	特にない
全体(n=1,216)	48.7	27.0	11.2	11.1	9.6	7.2	7.1	20.7
保育所(n=533)	49.3	18.0	12.6	12.0	11.8	8.6	8.4	22.1
幼稚園(n=637)	48.5	35.8	9.9	11.5	8.0	6.1	5.8	19.0
認定子ども園(n=25)	20.0	20.0	12.0	8.0	8.0	16.0	12.0	36.0
その他の保育サービス(n=53)	58.5	20.8	15.1	13.2	9.4	7.5	9.4	15.1

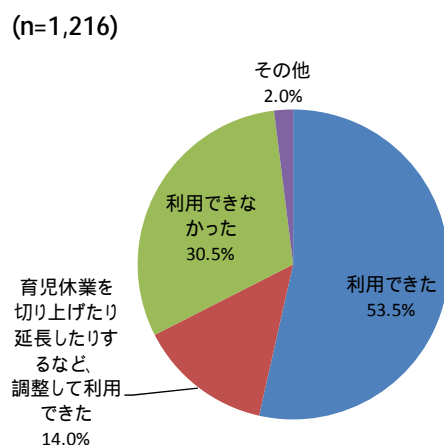
世帯の就業状況別でみると、「子どもを預かる時間が短いから」は専業主婦世帯で33.5%と共働き世帯の20.9%より高くなっている。

世帯の就業状況別

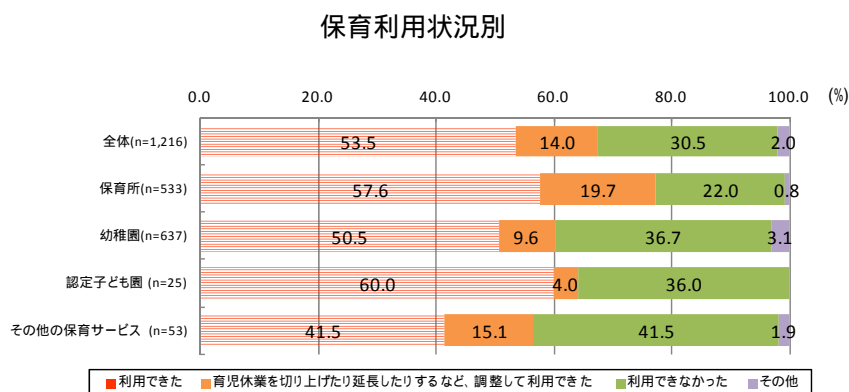
	利用料が高いから	子どもを預かる時間が短いから	保育や教育の内容に満足していないから	利用したい時に利用できないから(一時的に預けたいのに預けられないから)	スタッフの対応に満足していないから	スタッフの人員が十分でないから	その他	特にない
全体(n=1,216)	48.7	27.0	11.2	11.1	9.6	7.2	7.1	20.7
共働き世帯(n=650)	48.2	20.9	12.6	11.5	11.1	7.8	7.2	23.1
専業主婦世帯(n=505)	50.5	33.5	9.3	8.7	7.5	6.5	6.5	18.4
夫婦とも就業していない世帯(n=22)	54.5	40.9	13.6	36.4	9.1	4.5	4.5	4.5
父子家庭(n=14)	50.0	42.9	7.1	21.4	7.1	7.1	14.3	7.1
母子家庭(n=14)	21.4	35.7	21.4	21.4	21.4	0.0	14.3	28.6

## 希望した保育サービスの利用状況

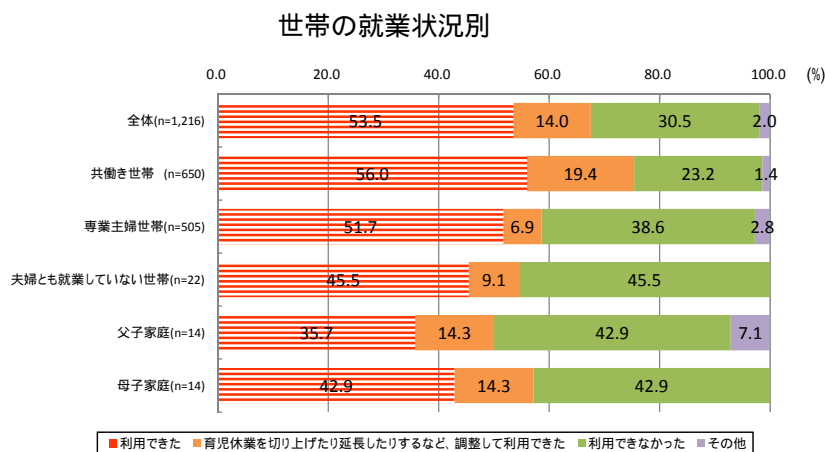
保育サービス利用者を対象に、希望した時期に、希望したサービスを利用できたか質問したところ、「利用できた」が53.5%と最も高く、次いで「利用できなかった」(30.5%)、「育児休業を切り上げたり延長したりするなど、調整して利用できた」(14.0%)となっている。



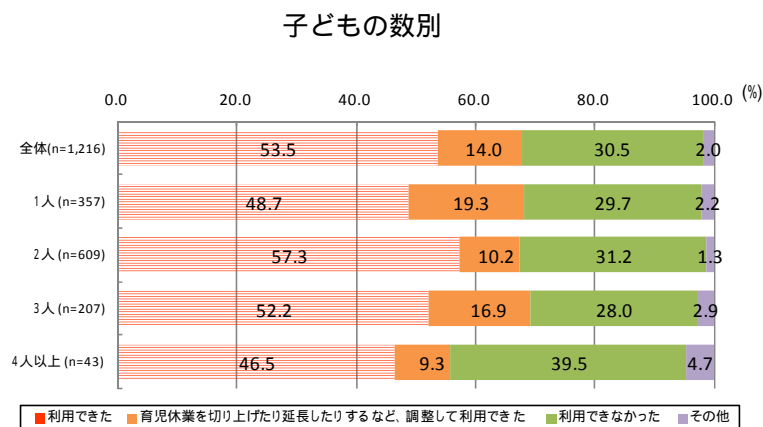
保育利用状況別でみると、「利用できた」は保育所が57.6%と幼稚園の50.5%より高くなっている。また、「育児休業を切り上げたり延長したりするなど、調整して利用できた」は、保育所が19.7%と高くなっている。一方、「その他保育サービス」と「幼稚園」に通っている者のそれぞれ41.5%、36.7%が「利用できなかった」としており、保育所に通っている者の22.0%に比べて高い。



世帯の就業状況別でみると、「利用できた」は共働き世帯で56.0%と専業主婦世帯の51.7%より高くなっている。一方、「利用できなかった」は共働き世帯で23.2%に対し、専業主婦世帯は38.6%となっている。



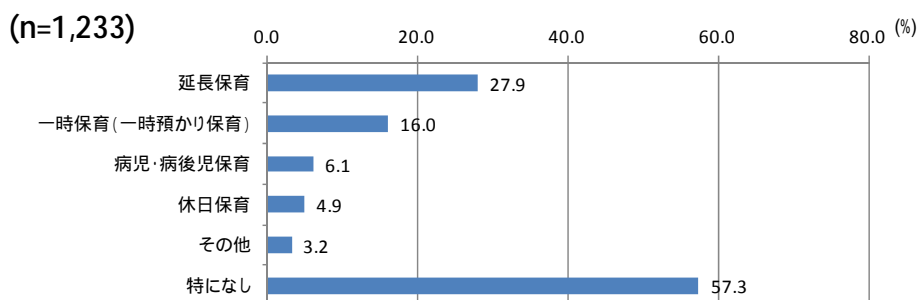
子どもの数別でみると、「利用できた」は2人で57.3%と最も高くなっている。また、「育児休業を切り上げたり延長したりするなど、調整して利用できた」は1人で19.3%と高くなっている。



n 数が 50 未満のため参考値

## 現在利用している保育

保育サービス利用者を対象に、現在利用している保育を質問したところ、「延長保育」が27.9%と最も高く、次いで「一時保育(一時預かり保育)」が16.0%と高くなっている。



保育利用状況別でみると、保育所、幼稚園は「延長保育」の割合が高くなっており、特に保育所は32.7%と高くなっている。その他の保育サービスは「一時保育(一時預かり保育)」が40.0%と極めて高くなっている。

保育利用状況別

	延長保育	一時保育 (一時預かり保育)	病児・病後児保育	休日保育	その他	特になし (%)
全体(n=1,233)	27.9	16.0	6.1	4.9	3.2	57.3
保育所(n=539)	32.7	13.4	10.2	7.6	4.6	51.8
幼稚園(n=646)	25.4	18.0	2.5	2.8	2.2	61.5
認定子ども園 (n=25)	20.0	16.0	4.0	0.0	4.0	60.0
その他の保育サービス (n=55)	21.8	40.0	12.7	7.3	3.6	45.5

世帯の就業状況別でみると、「延長保育」「病児・病後児保育」「休日保育」において、共働き世帯の方が、専業主婦世帯よりも高くなっている。

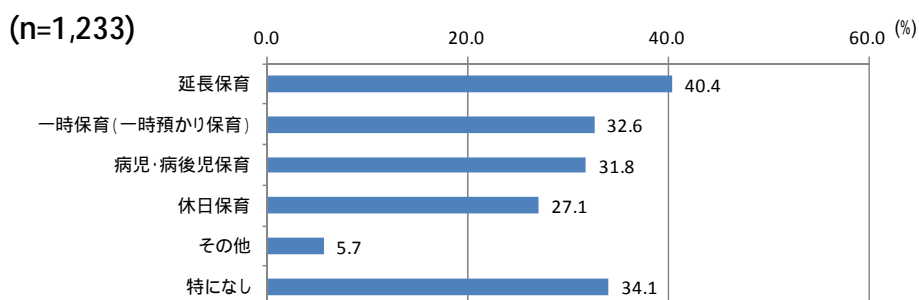
世帯の就業状況別

	延長保育	一時保育 (一時預かり保育)	病児・病後児保育	休日保育	その他	特になし (%)
全体(n=1,233)	27.9	16.0	6.1	4.9	3.2	57.3
共働き世帯 (n=657)	34.4	15.4	9.6	7.8	3.8	50.2
専業主婦世帯(n=513)	19.3	16.2	1.6	1.0	2.5	66.3
夫婦とも就業していない 世帯(n=23)	30.4	26.1	0.0	4.3	4.3	47.8
父子家庭(n=15)	40.0	33.3	20.0	20.0	0.0	46.7
母子家庭(n=14)	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	78.6



## 今後利用したい保育

保育サービス利用者を対象に、今後利用したい保育を質問したところ、「延長保育」が40.4%と最も高く、次いで「一時保育（一時預かり保育）」（32.6%）、「病児・病後児保育」（31.8%）となっている。



保育利用状況別で見ると、「延長保育」は保育所(42.7%)、幼稚園(40.4%)で高くなっている。また、保育所は「病児・病後児保育」が42.3%と高くなっている。

保育利用状況別

	延長保育	一時保育 (一時預かり保育)	病児・病後児保育	休日保育	その他	特になし	(%)
全体(n=1,233)	40.4	32.6	31.8	27.1	5.7	34.1	
保育所(n=539)	42.7	28.4	42.3	34.1	6.1	30.1	
幼稚園(n=646)	40.4	35.6	23.7	21.5	5.1	36.5	
認定子ども園 (n=25)	28.0	36.0	24.0	16.0	4.0	36.0	
その他の保育サービス (n=55)	34.5	47.3	41.8	34.5	16.4	30.9	

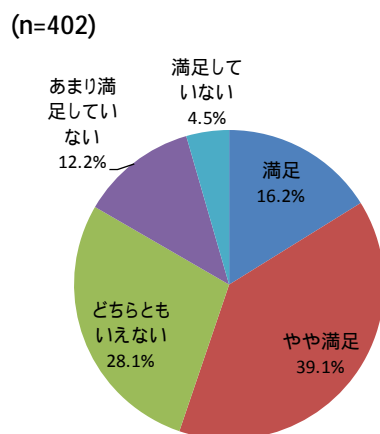
世帯の就業状況別で見ると、「一時保育（一時預かり保育）」は専業主婦世帯で37.2%と共働き世帯の28.3%より高くなっている。また、「病児・病後児保育」は共働き世帯で36.8%と専業主婦世帯の24.2%より高くなっている。

世帯の就業状況別

	延長保育	一時保育 (一時預かり保育)	病児・病後児保育	休日保育	その他	特になし	(%)
全体(n=1,233)	40.4	32.6	31.8	27.1	5.7	34.1	
共働き世帯 (n=657)	39.6	28.3	36.8	29.5	5.0	33.2	
専業主婦世帯(n=513)	40.7	37.2	24.2	23.0	5.5	35.7	
夫婦とも就業していない 世帯(n=23)	43.5	56.5	39.1	26.1	21.7	17.4	
父子家庭(n=15)	40.0	33.3	13.3	33.3	13.3	40.0	
母子家庭(n=14)	57.1	28.6	71.4	50.0	7.1	28.6	

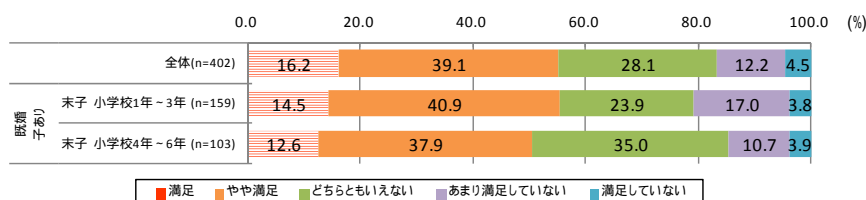
## 利用している放課後児童クラブ、放課後子どもプランの満足度

放課後の児童対策のサービスの利用者を対象に、サービス(利用時間、サービス内容、スタッフ、料金等)に満足しているか質問したところ、「やや満足」が39.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」(28.1%)、「満足」(16.2%)となっている。



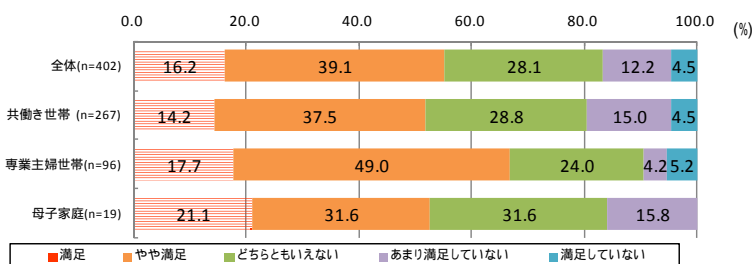
ライフステージ別でみると、各ステージで満足している割合(「満足」と「やや満足」の計)が高くなっている。満足していない割合(「満足していない」と「あまり満足していない」の計)は既婚子あり/末子小学校1年~3年で20.8%と高くなっている。

ライフステージ別



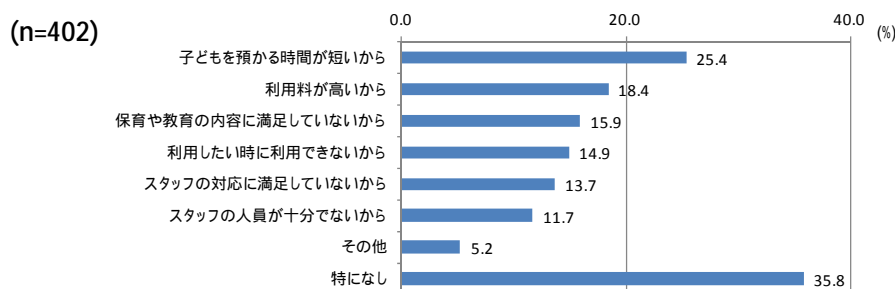
世帯の就業状況別でみると、満足している割合(「満足」と「やや満足」の計)は専業主婦世帯で66.7%と共働き世帯の51.7%より高くなっている。

世帯の就業状況別



## 利用している放課後児童クラブ、放課後子どもプランの不満点

放課後の児童対策のサービスの利用者を対象に、サービスに満足していない理由を質問したところ、「子どもを預かる時間が短いから」が25.4%と最も高く、次いで「利用料が高いから」(18.4%)、「保育や教育の内容に満足していないから」(15.9%)となっている。



ライフステージ別でみると、「子どもを預かる時間が短いから」は既婚子あり/末子小学校1年～3年が30.8%と高く、「利用したい時に利用できないから」は既婚子あり/末子小学校4年～6年が20.4%と高くなっている。また「利用料が高いから」「保育や教育の内容に満足していないから」は既婚子あり/末子小学校1年～3年で高くなっている。

### ライフステージ別

		子どもを預かる時間が短いから	利用料が高いから	保育や教育の内容に満足していないから	利用したい時に利用できないから	スタッフの対応に満足していないから	スタッフの人員が十分でないから	その他	特になし
全体 (n=402)		25.4	18.4	15.9	14.9	13.7	11.7	5.2	35.8
既婚子あり	末子 小学校1年～3年 (n=159)	30.8	19.5	21.4	15.1	15.1	11.3	5.7	25.8
	末子 小学校4年～6年 (n=103)	27.2	13.6	9.7	20.4	9.7	13.6	8.7	33.0

世帯の就業状況別でみると、「子どもを預かる時間が短いから」は共働き世帯で26.2%と専業主婦世帯の19.8%より高くなっている。「利用したいときに利用できないから」については専業主婦世帯で17.7%と共働き世帯の13.9%より高くなっている。

### 世帯の就業状況別

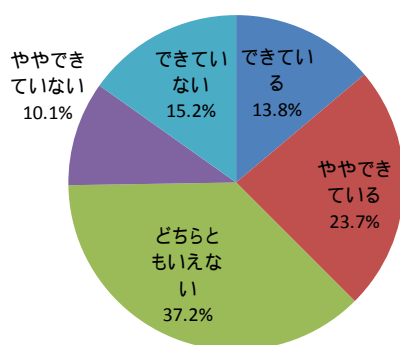
		子どもを預かる時間が短いから	利用料が高いから	保育や教育の内容に満足していないから	利用したい時に利用できないから	スタッフの対応に満足していないから	スタッフの人員が十分でないから	その他	特になし
全体 (n=402)		25.4	18.4	15.9	14.9	13.7	11.7	5.2	35.8
共働き世帯 (n=267)		26.2	20.2	18.4	13.9	15.7	11.2	6.0	33.0
専業主婦世帯 (n=96)		19.8	10.4	9.4	17.7	7.3	11.5	4.2	43.8
母子家庭 (n=19)		21.1	26.3	15.8	0.0	5.3	21.1	5.3	36.8

## 4. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

### 仕事と子育ての両立

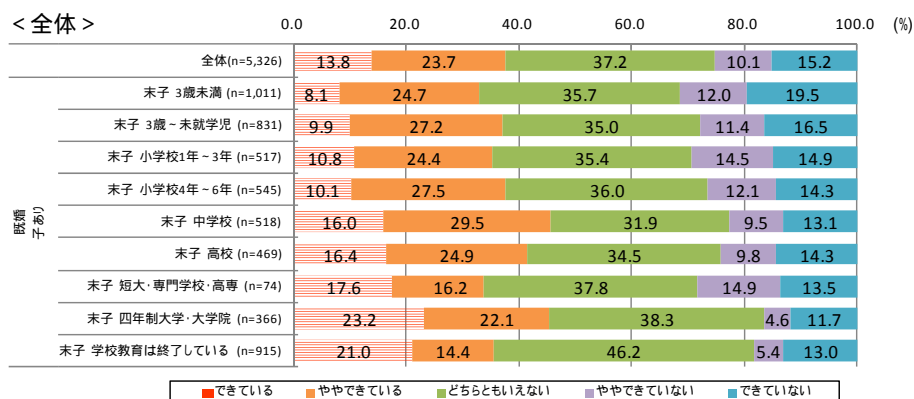
子どもがいる人を対象に、仕事と子育ての両立ができているか質問したところ、「どちらともいえない」が37.2%と最も高く、次いで「ややできている」(23.7%)、「できていない」(15.2%)となっている。

(n=5,326)



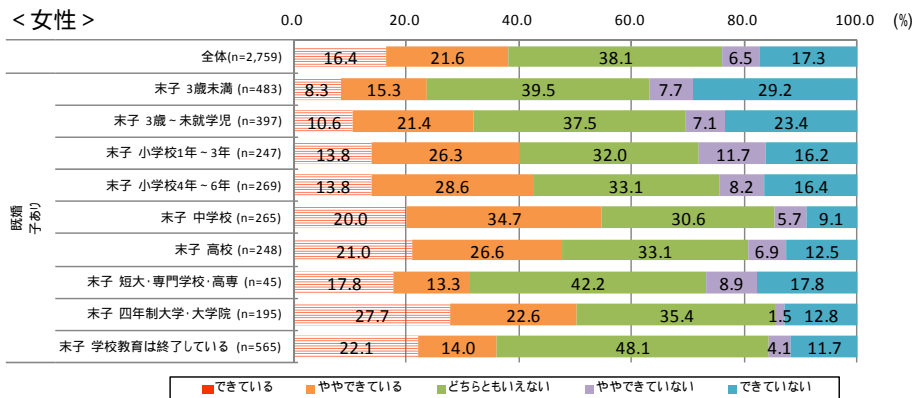
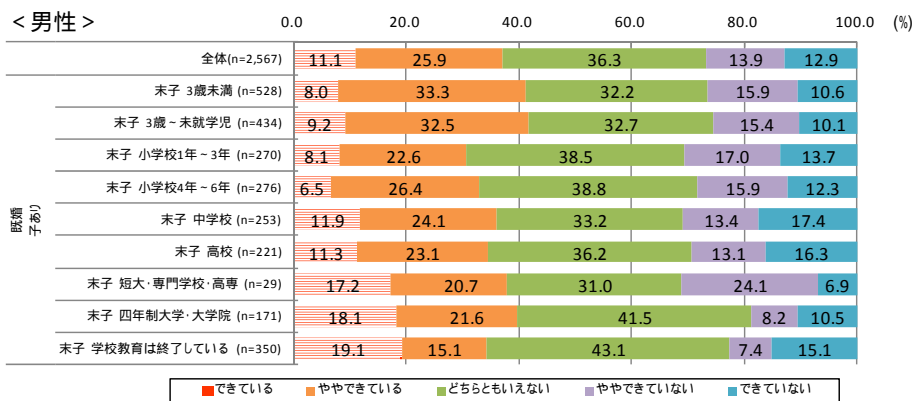
ライフステージ別でみると、できている割合(「できている」と「ややできている」の計)は末子中学校で45.5%と最も高く、次いで末子四年制大学・大学院で45.3%と高くなっている。また、できていない割合(「できていない」と「ややできていない」の計)は末子3歳未満で31.5%と最も高く、次いで末子小学校1年～3年で29.4%と高くなっている。

ライフステージ別



ライフステージの男女別にみると、できている割合(「できている」と「ややできている」の計)が最も高いのは、男性は末子 3 歳～未就学児で 41.7%、女性は末子中学校で 54.7%となっている。できていない割合(「できていない」と「ややできていない」の計)が最も高いのは、男性は末子中学校で 30.8%、女性は末子 3 歳未満で 36.9%となっている。

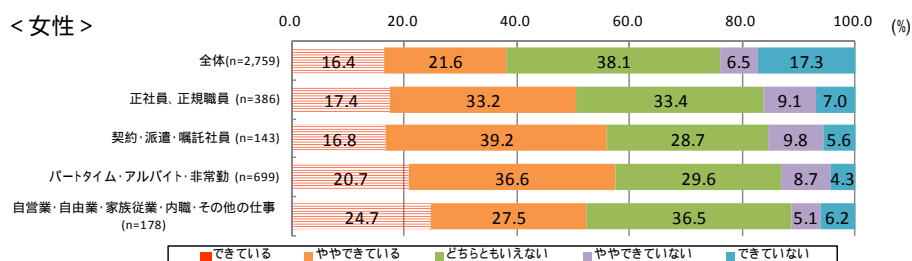
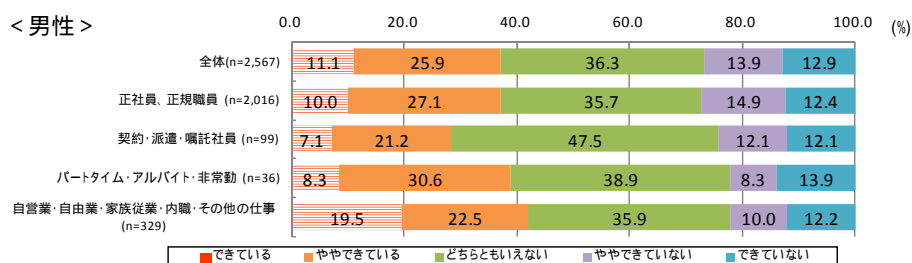
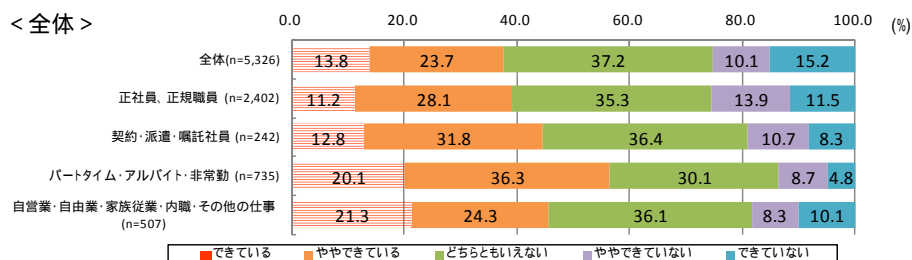
ライフステージ別



就業形態別でみると、できている割合(「できている」と「ややできている」の計)はパートタイム・アルバイト・非常勤で56.4%と最も高く、次いで自営業・自由業・家族従業・内職・その他の仕事で45.6%と高くなっている。また、できていない割合(「できていない」と「ややできていない」の計)は正社員と非正規職員を比べると、正社員の方で高くなっている。

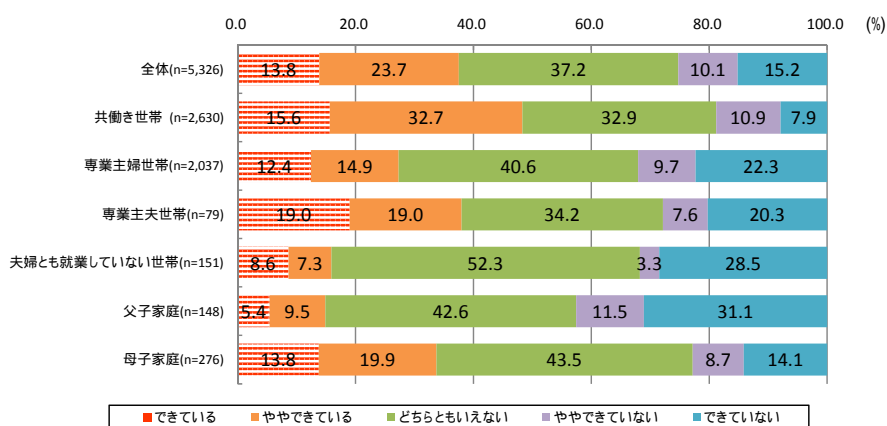
男女別にみると、できている割合は、男性は自営業・自由業・家族従業・内職・その他の仕事で42.0%と最も高く、次いで正社員・正規職員が37.1%、女性はパートタイム・アルバイト・非常勤で57.3%と最も高く、次いで契約・派遣・嘱託社員で56.0%となっている。

就業形態別



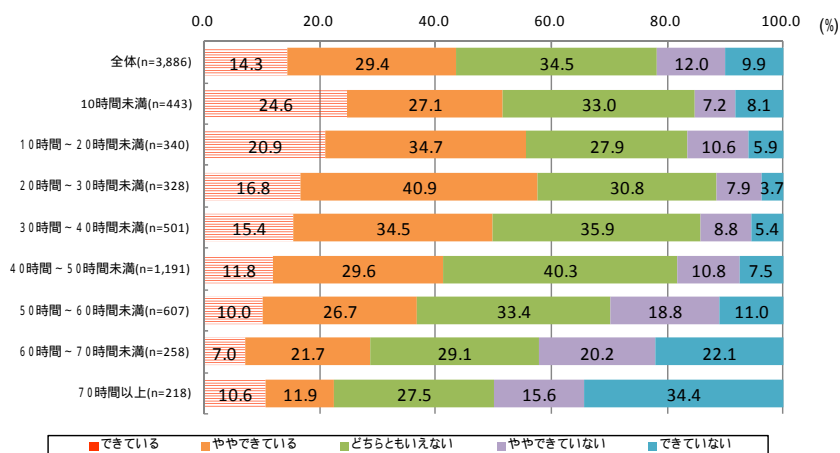
世帯の就業状況別でみると、できている割合(「できている」と「ややできている」の計)は共働き世帯で48.3%と最も高く、次いで専業主夫世帯で38.0%、母子家庭で33.7%となっている。

世帯の就業状況別



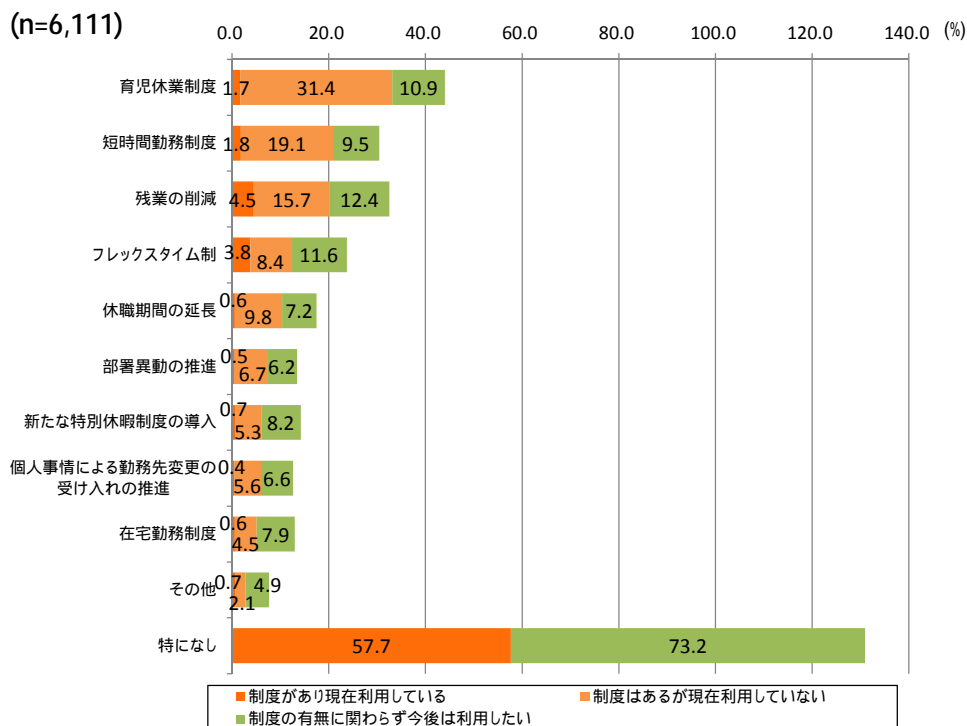
労働時間(週)別でみると、できている割合(「できている」と「ややできている」の計)は20時間～30時間未満で57.7%と最も高く、次いで10時間～20時間未満で55.6%と高くなっており、労働時間が長くなるほどできている割合が減少する。

労働時間(週)別



## 勤務先の育児を充実させるための制度・仕組みについて

被雇用者（正社員・正規職員、契約社員、派遣・嘱託社員、パートタイム・アルバイト、非常勤）を対象に勤務先に育児を充実させるための制度・仕組みがあるか、また、制度・仕組みを利用したいか質問したところ、それぞれの制度・仕組みについて、それぞれ1割前後が制度はないが利用したいという希望がある。

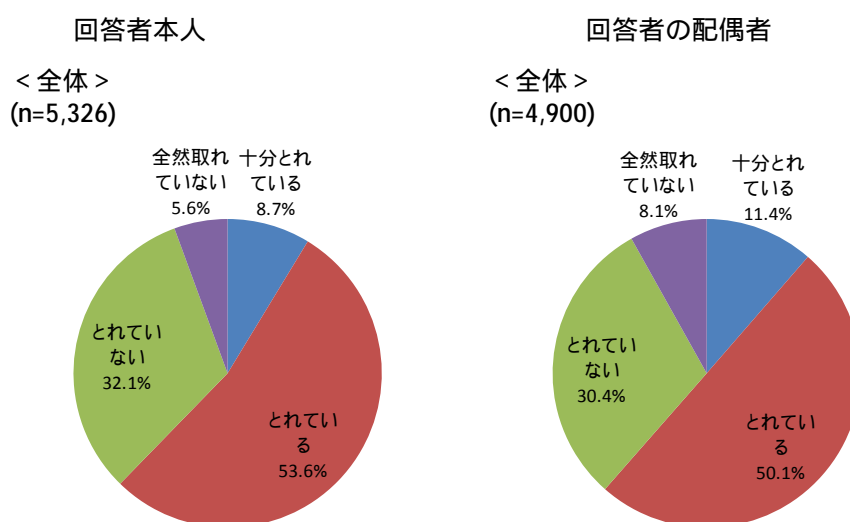




## 子どもの話を聞いたりともにくつろいだりする時間

子どもがいる人を対象に子どもの話を聞いたりともにくつろいだりする時間がとれているか質問したところ、「とれている」が53.6%と最も高く、次いで「とれていない」(32.1%)、「十分とれている」(8.7%)となっている。

また、結婚(事実婚を含む)をしていて子どもがいる人を対象に、配偶者が子どもの話を聞いたり遊んだりする時間がとれているか質問したところ、「とれている」が50.1%と最も高く、次いで「とれていない」(30.4%)、「十分とれている」(11.4%)となっている。

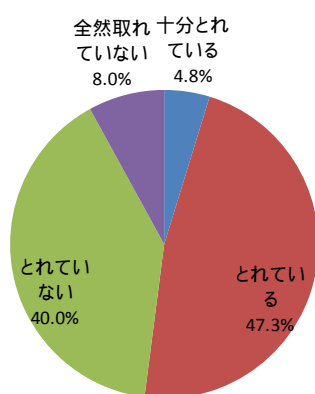


子どもの話を聞いたりともにくつろいだりする時間

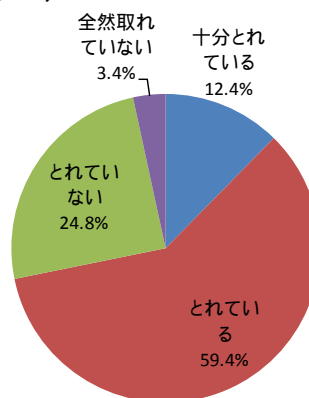
男女別にみると、回答者本人では、「とれている」と回答したのは男性 47.3%、女性 59.4%と女性の方が割合が高くなっている。一方、回答者の配偶者では、「とれている」割合は男性 59.3%、女性 41.1%となっている。

[回答者本人]

<男性>  
(n=2,567)

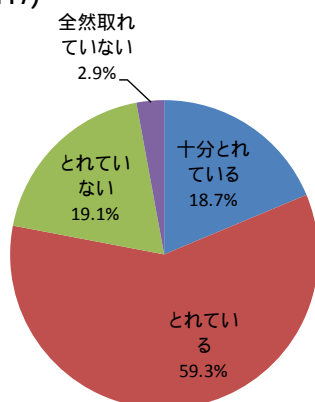


<女性>  
(n=2,759)

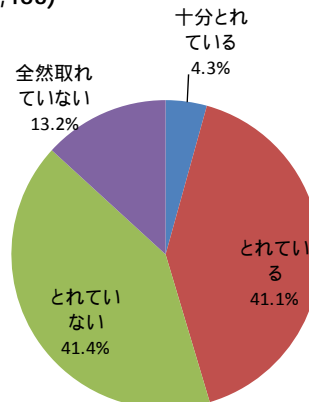


[回答者の配偶者]

<男性> (配偶者は女性)  
(n=2,417)



<女性> (配偶者は男性)  
(n=2,483)



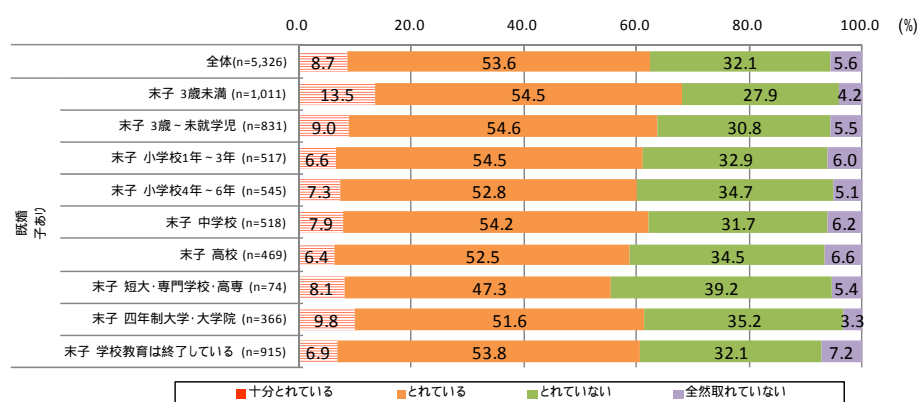
子どもの話を聞いたりともにくつろいだりする時間

ライフステージ別でみると、回答者本人では、とれている割合（「十分とれている」と「とれている」の計）は末子3歳未満で68.0%と最も高く、次いで末子3歳～未就学児(63.6%)、末子中学校(62.1%)となっている。

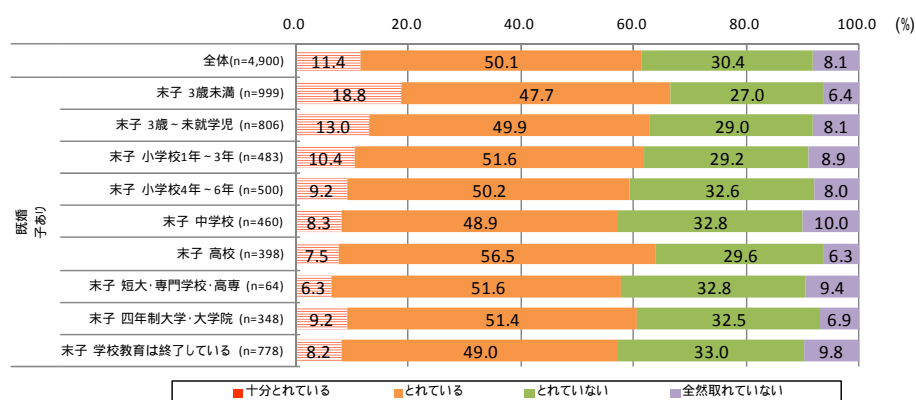
一方、回答者の配偶者では、とれている割合は末子3歳未満で66.5%と最も高く、次いで末子高校(64.0%)、末子3歳～未就学児(62.9%)となっている。

ライフステージ別

[回答者本人]



[回答者の配偶者]



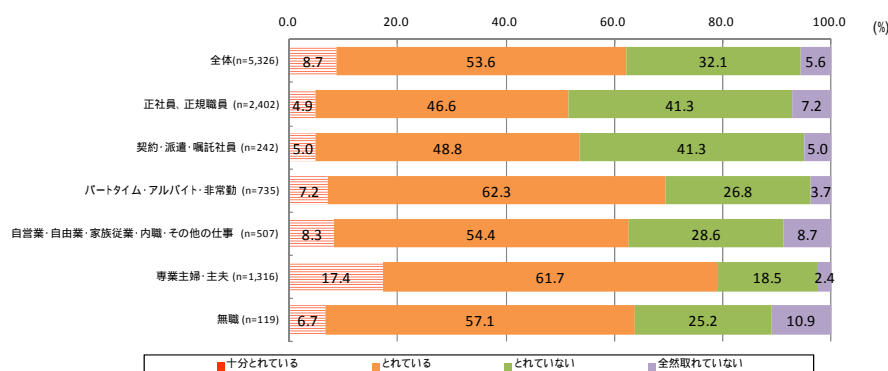
子どもの話を聞いたりともにくつろいだりする時間

就業形態別でみると、回答者本人では、とれている割合（「十分とれている」と「とれている」の計）は専業主婦・主夫で79.1%と最も高く、非正規職員の方が正社員よりも高くなっている。

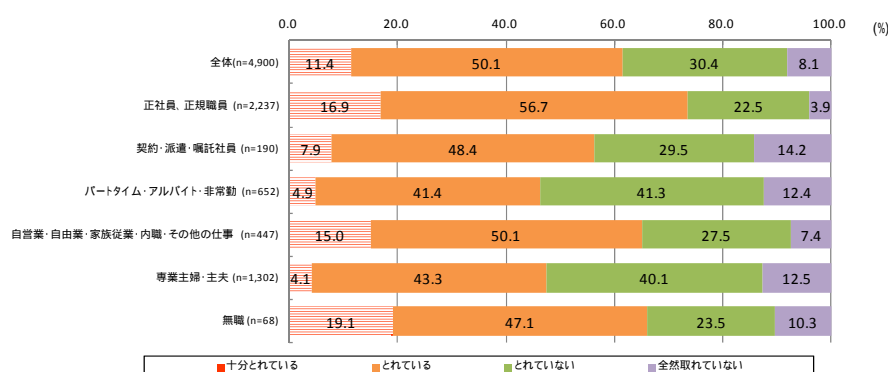
一方、回答者の配偶者では、とれている割合は正社員の方が非正規職員よりも相対的に高くなっている。

就業形態別

[回答者本人]



[回答者の配偶者]（属性は回答者本人のもの）

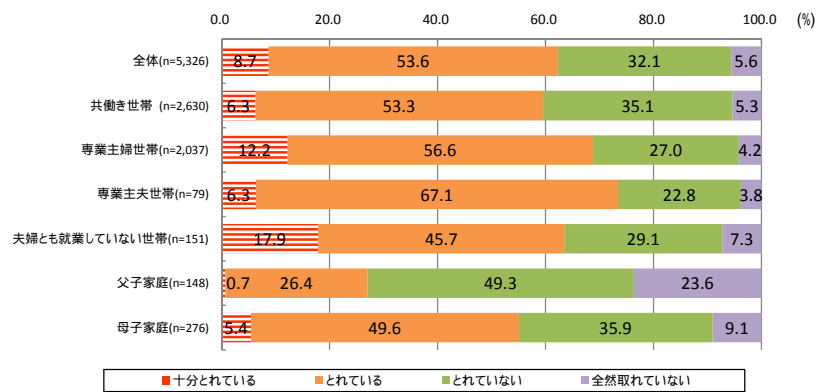


世帯の就業状況別でみると、回答者本人では、とれている割合（「十分とれている」と「とれている」の計）は専業主夫世帯で73.4%と最も高く、次いで専業主婦世帯（68.8%）、夫婦とも就業していない世帯（63.6%）となっている。また、母子家庭の方が父子家庭よりもとれている割合が高くなっている。

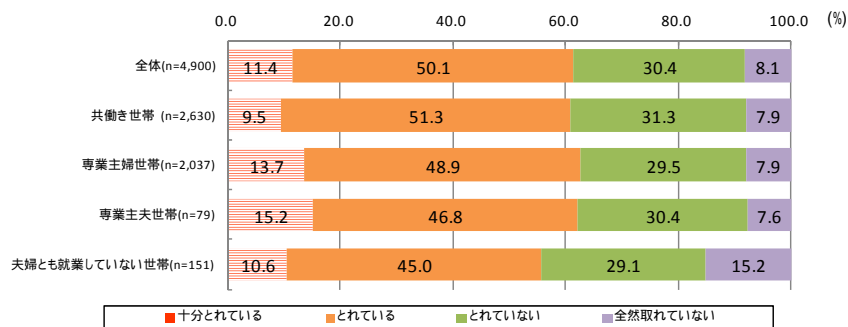
一方、回答者の配偶者では、とれている割合は専業主婦世帯で62.6%と最も高く、次いで、専業主夫世帯で62.0%、共働き世帯で60.8%となっている。

### 世帯の就業状況別

[回答者本人]

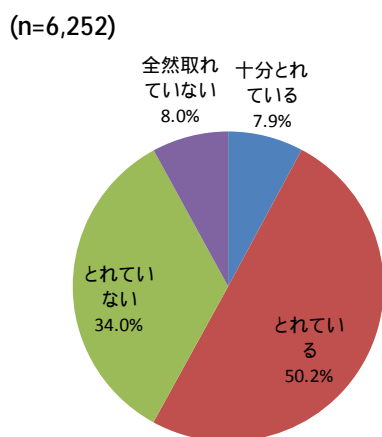


[回答者の配偶者]

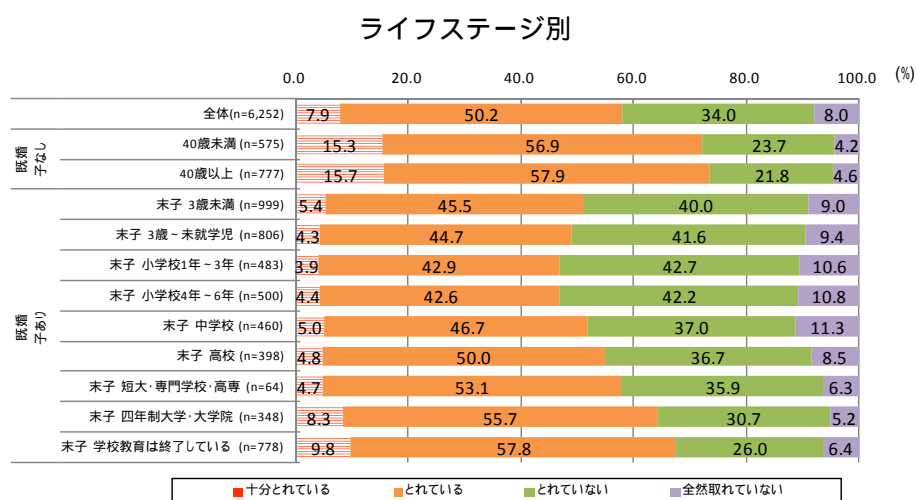


## 配偶者の話を聞いたりともにくつろいだりする時間

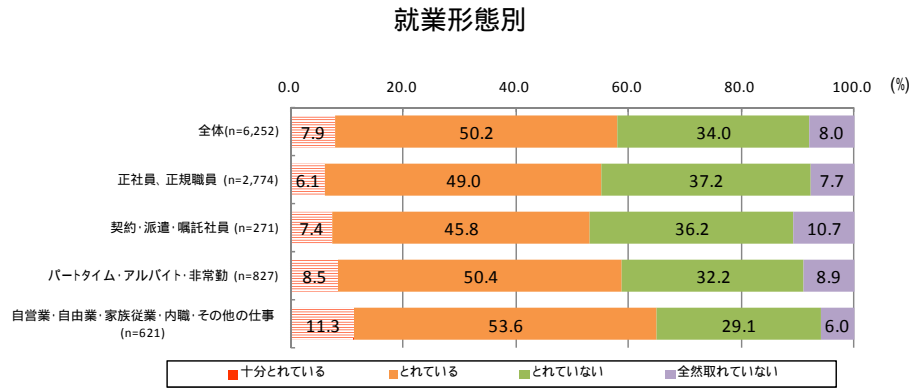
結婚している人を対象に、配偶者の話を聞いたり、ともにくつろいだりする時間がとれているか質問したところ、「とれている」が50.2%と最も高く、次いで「とれていない」(34.0%)、「全然取れていない」(8.0%)となっている。



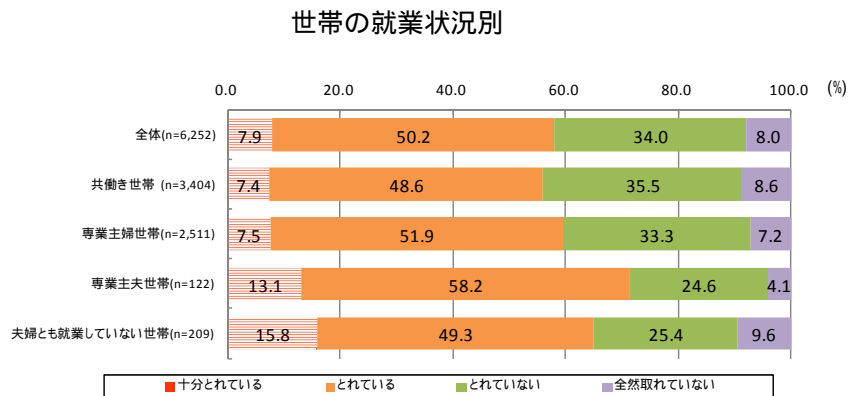
ライフステージ別でみると、とれている割合(「十分とれている」と「とれている」の計)は子なしの方が子ありよりも高くなっている。また、末子年齢が上がるにつれ、とれている割合が高くなる傾向にある。



就業形態別でみると、とれている割合（「十分とれている」と「とれている」の計）は自営業・自由業・家族従業・内職・その他の仕事で64.9%と高く、次いでパートタイム・アルバイト・非常勤で58.9%となっている。



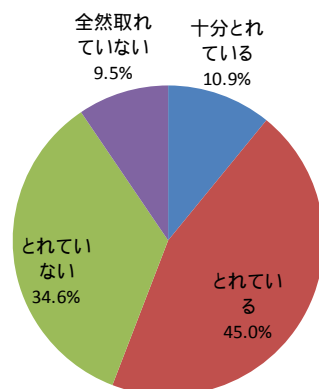
世帯の就業状況別でみると、とれている割合（「十分とれている」と「とれている」の計）は専業主夫世帯で71.3%と最も高く、次いで夫婦とも就業していない世帯(65.1%)、専業主婦世帯(59.4%)、共働き世帯(56.0%)となっている。



## 休息のための時間を十分とれていますか

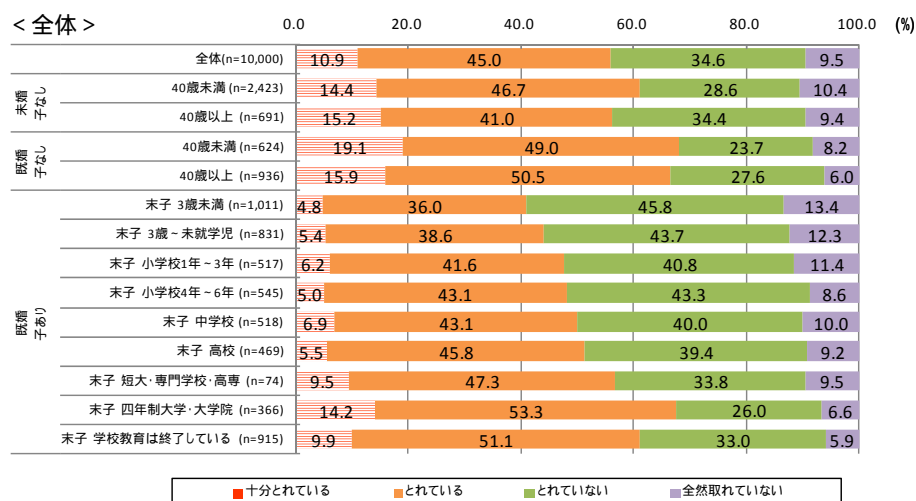
休息のための時間を十分とれているか質問したところ、「とれている」が 45.0%と最も高く、次いで「とれていない」(34.6%)、「十分とれている」(10.9%)となっている。

(n=10,000)



ライフステージ別でみると、とれている割合(「十分とれている」と「とれている」の計)は未婚子なし、既婚子なしの方が、既婚子ありよりも高くなっている。また、既婚子ありは末子年齢が上がるにつれ、とれている割合が高くなる傾向にある。

### ライフステージ別

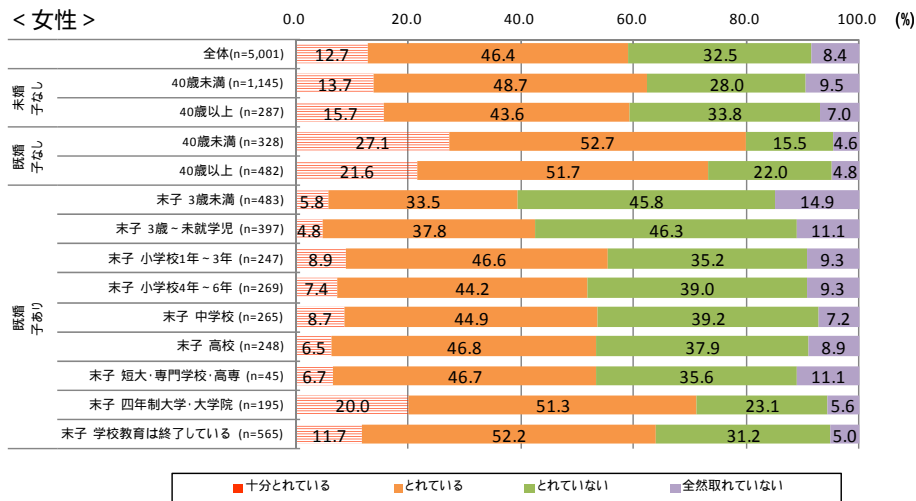
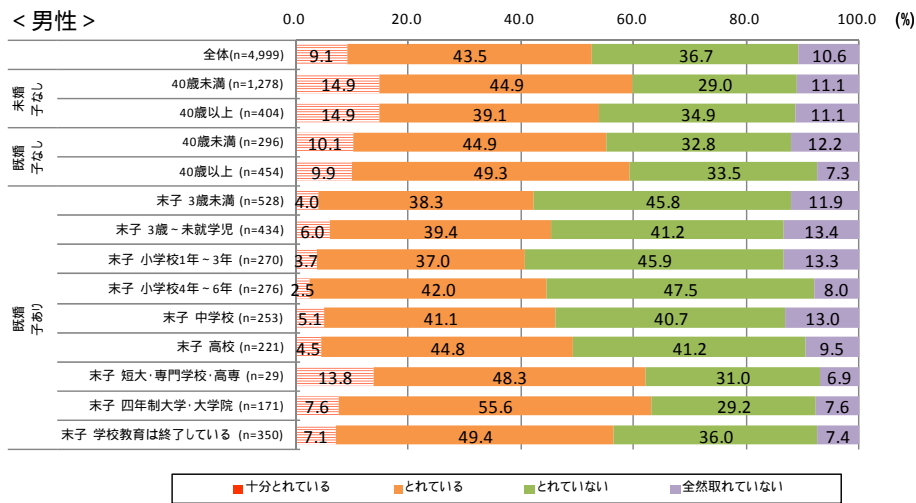




休息のための時間を十分とれていますか

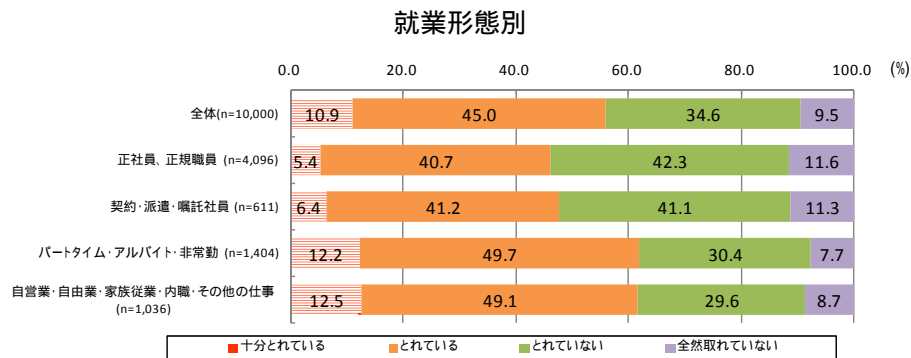
ライフステージを男女別にみると、全体的に女性のほうがとれている割合（「十分とれている」と「とれている」の計）が高くなっており、特に女性の既婚子なし/40歳未満で79.8%、既婚子なし/40歳以上で73.3%と高くなっている。

ライフステージ別

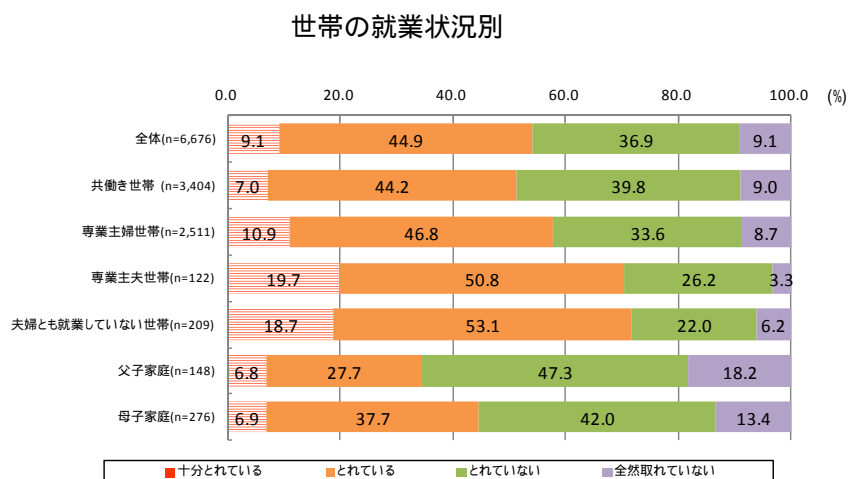


休息のための時間を十分とれていますか

就業形態別でみると、とれている割合（「十分とれている」と「とれている」の計）は、パートタイム・アルバイト・非常勤で 61.9%、自営業・自由業・家族従業・内職・その他の仕事で 61.6%と、契約・派遣・嘱託社員の 47.6%、正社員・正規職員の 46.1%より高くなっている。



世帯の就業状況別でみると、とれている割合（「十分とれている」と「とれている」の計）は夫婦とも就業していない世帯で 71.8%と最も高く、次いで専業主夫世帯(70.5%)、専業主婦世帯(57.7%)となっている。また、とれていない割合（「全然取れていない」と「とれていない」の計）は、父子家庭で 65.5%と最も高く、次いで母子家庭で 55.4%となっている。

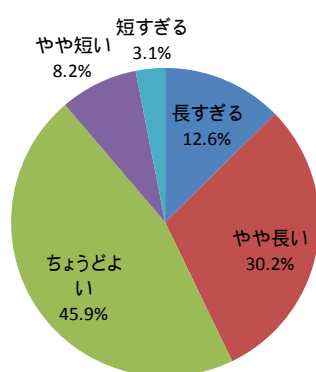


## 仕事時間(希望との比較)

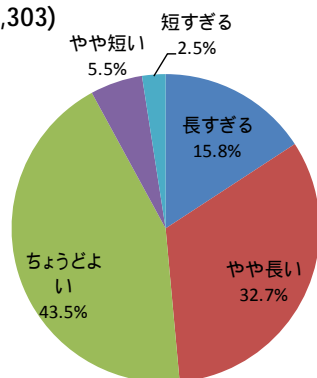
就業している人を対象に仕事時間は希望と比べてどうか質問したところ、「ちょうどよい」が45.9%と最も高く、次いで「やや長い」(30.2%)、「長すぎる」(12.6%)となっている。

男女別にみると長い割合(「長すぎる」と「やや長い」の計)は男性48.5%、女性34.2%と男性の方で高くなっている。

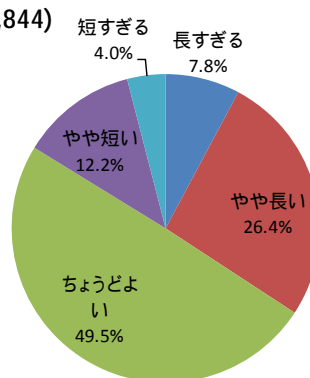
<全体>  
(n=7,147)



<男性>  
(n=4,303)

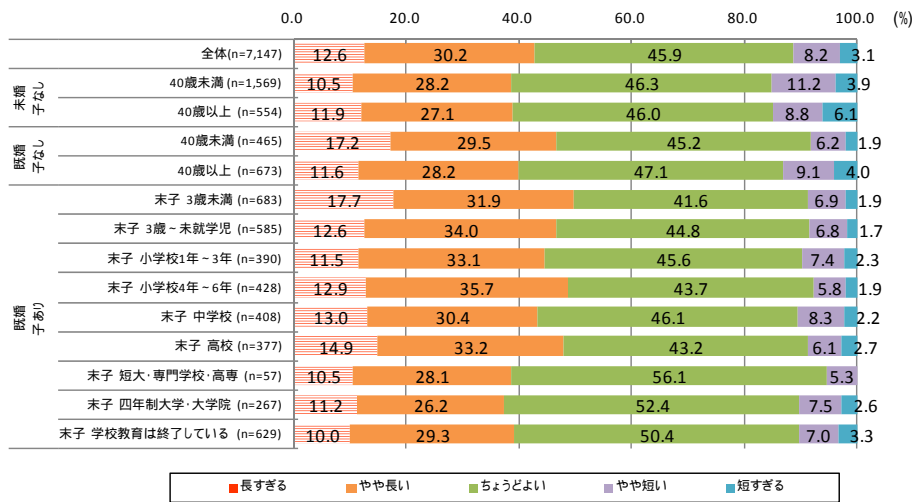


<女性>  
(n=2,844)



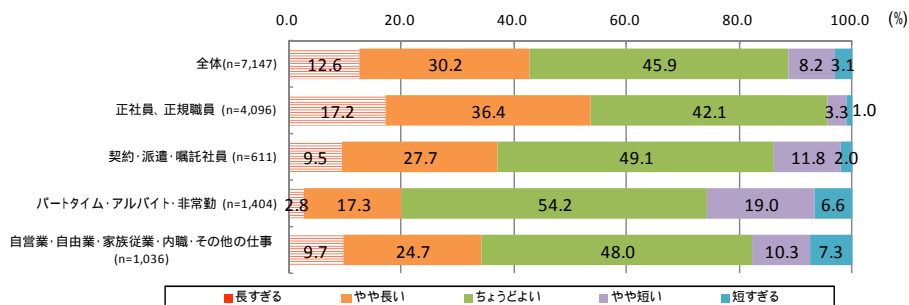
ライフステージ別でみると、仕事時間が希望よりも長い割合（「長すぎる」と「やや長い」の計）は、既婚子あり/末子3歳未満で49.6%と最も高い一方、未婚子なし、既婚子なし/40歳以上では短い（「短すぎる」と「やや短い」の計）が15%弱と高くなっている。既婚子ありにおいて、長い割合は、末子高校以下の方が末子短大・専門学校・高専以上より高くなっている。

ライフステージ別

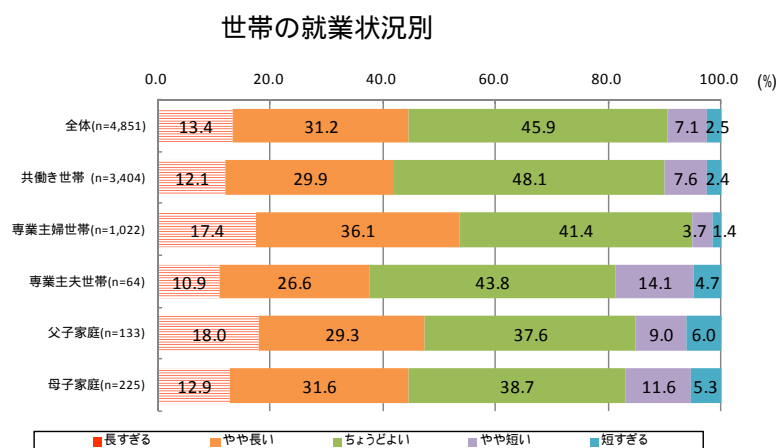


就業形態別でみると、長い割合（「長すぎる」と「やや長い」の計）は、正社員の方が非正規職員よりも高くなっている。また、パートタイム・アルバイト・非常勤では短い割合（「やや短い」と「短すぎる」の計）が25.6%と高くなっている。

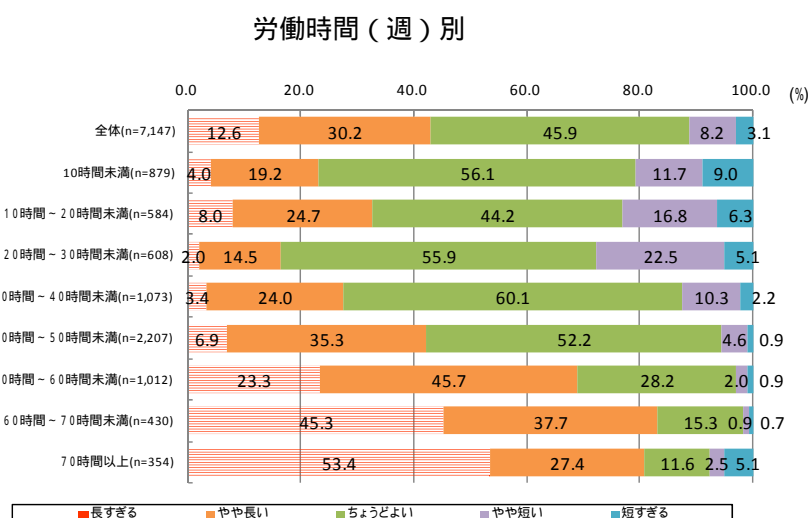
就業形態別



世帯の就業状況別でみると、長い割合(「長すぎる」と「やや長い」の計)は専業主夫世帯で53.5%と最も高く、次いで父子家庭で47.3%、母子家庭で44.5%となっている。



労働時間(週)別でみると、長い割合(「長すぎる」と「やや長い」の計)は、60時間~70時間未満で83.0%と最も高く、次いで70時間以上(80.8%)、50時間~60時間未満(69.0%)となっている。特に70時間以上では「長すぎる」割合が53.4%と過半数を超えている。

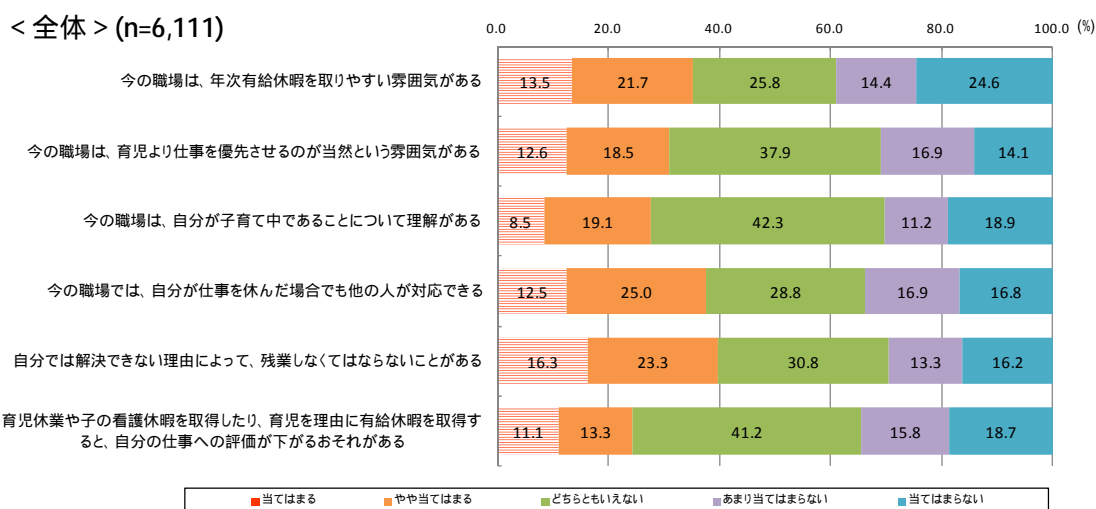


## 職場の状況について

被雇用者（正社員・正規職員、契約社員、派遣・嘱託社員、パートタイム・アルバイト、非常勤）を対象に、職場の状況について該当するものを質問したところ、当てはまる割合（「当てはまる」と「やや当てはまる」の計）は「自分では解決できない理由によって、残業しなくてはならないことがある」が39.6%と最も高く、次いで「今の職場では、自分が仕事を休んだ場合でも他の人が対応できる」（37.5%）、「今の職場は、年次有給休暇を取りやすい雰囲気がある」（35.2%）となっている。

また、当てはまらない割合（「当てはまらない」と「あまり当てはまらない」の計）は、「今の職場は、年次有給休暇を取りやすい雰囲気がある」が39.0%と最も高く、次いで「育児休業や子の看護休暇を取得したり、育児を理由に有給休暇を取得すると、自分の仕事への評価が下がるおそれがある」（34.5%）、「今の職場では、自分が仕事を休んだ場合でも他の人が対応できる」（33.7%）となっている。

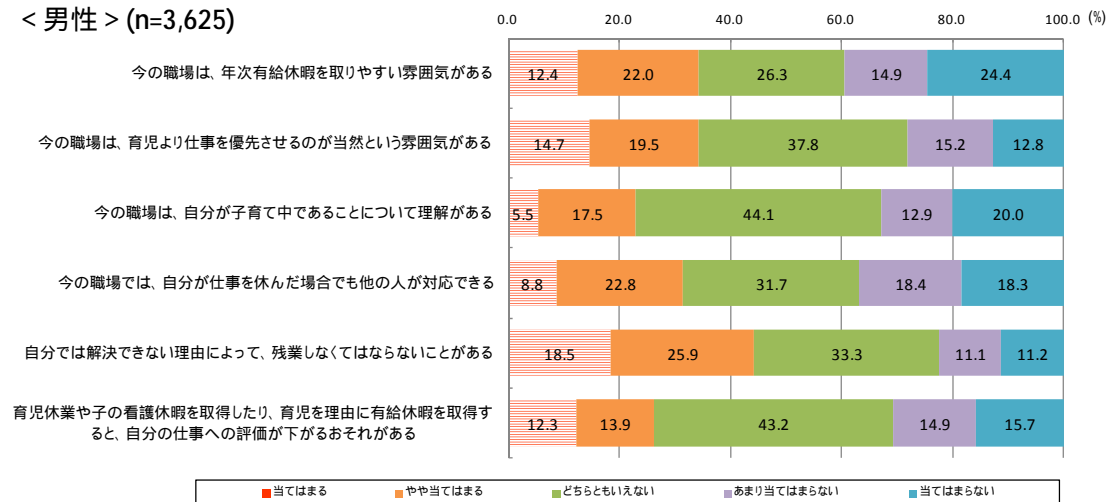
回答者の職場の状況



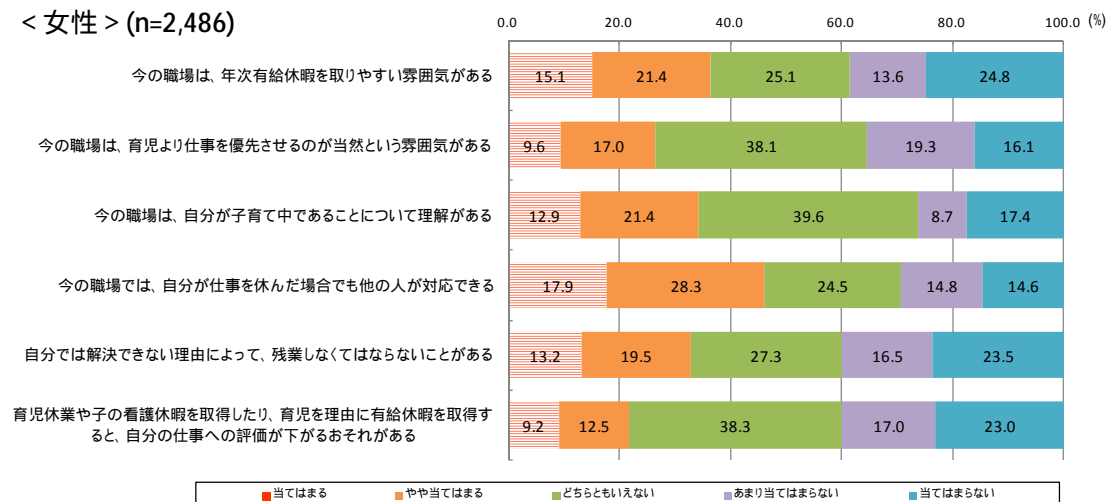
男女別にみると、男性の当てはまる割合（「当てはまる」と「やや当てはまる」の計）は「自分では解決できない理由によって、残業しなくてはならないことがある」が44.4%と最も高いのに対し、女性の当てはまる割合は「今の職場では、自分が仕事を休んだ場合でも他の人が対応できる」が46.2%と最も高くなっている。

回答者の職場の状況

< 男性 > (n=3,625)

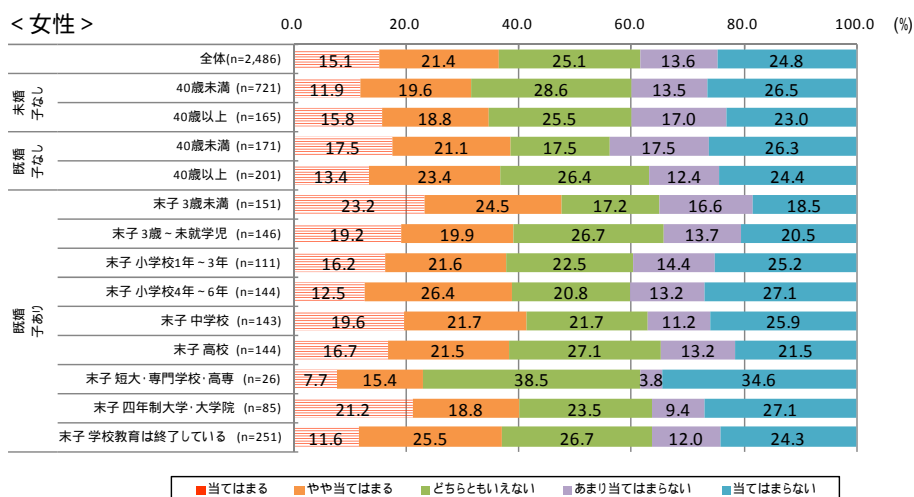
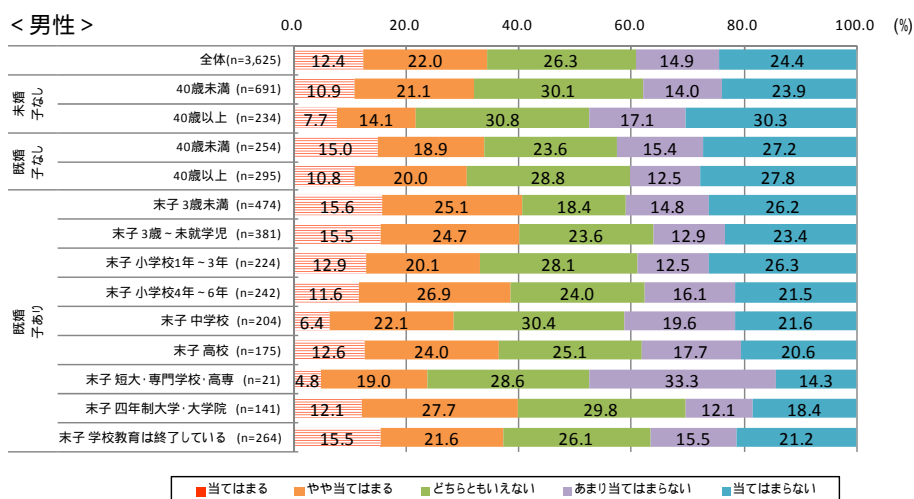


< 女性 > (n=2,486)



「今の職場は、年次有給休暇を取りやすい雰囲気がある」をライフステージの男女別でみると、当てはまる割合(「当てはまる」と「やや当てはまる」の計)は、女性の既婚子あり/末子3歳未満で47.7%と最も高くなっている。男女で違いが大きい点として、既婚子あり/末子中学校では、当てはまる割合は、男性が28.5%と女性の41.3%より低くなっている。

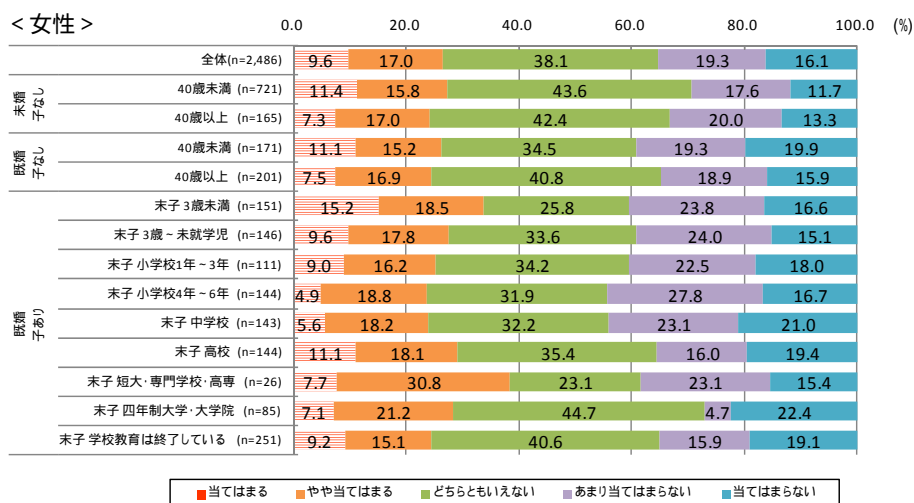
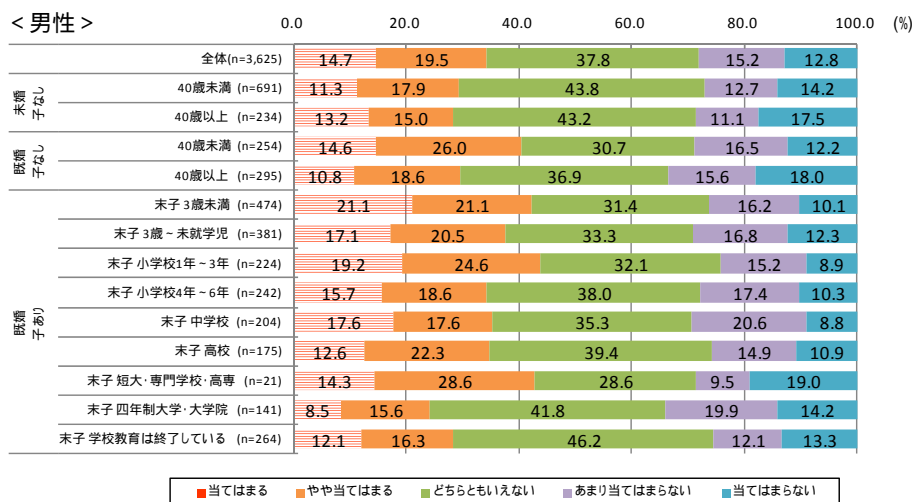
「今の職場は、年次有給休暇を取りやすい雰囲気がある」  
(ライフステージ別)





「今の職場は、育児より仕事を優先させるのが当然という雰囲気がある」をライフステージの男女別で見ると、当てはまる割合(「当てはまる」と「やや当てはまる」の計)は、全体的に男性のほうが高くなっている。男女で違いが大きい点として、既婚子あり/末子小学校1~3年生では、当てはまる割合は、男性が43.8%と女性の25.2%よりも高くなっている。

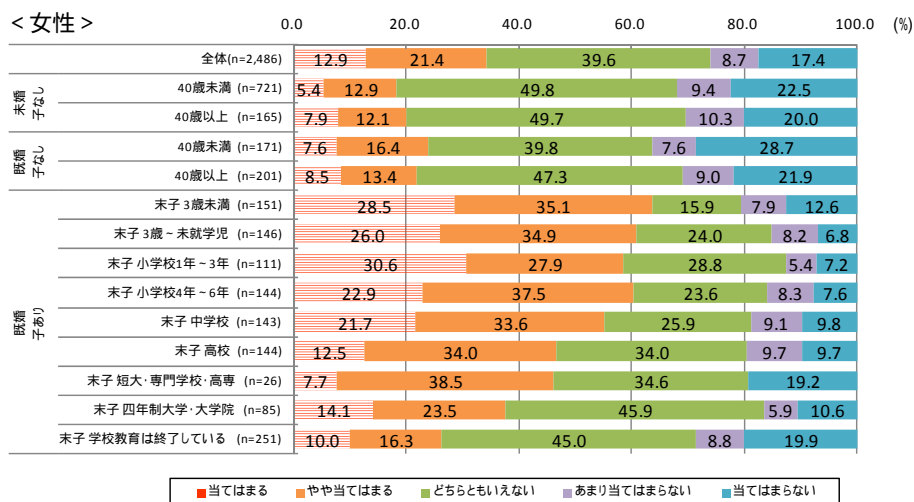
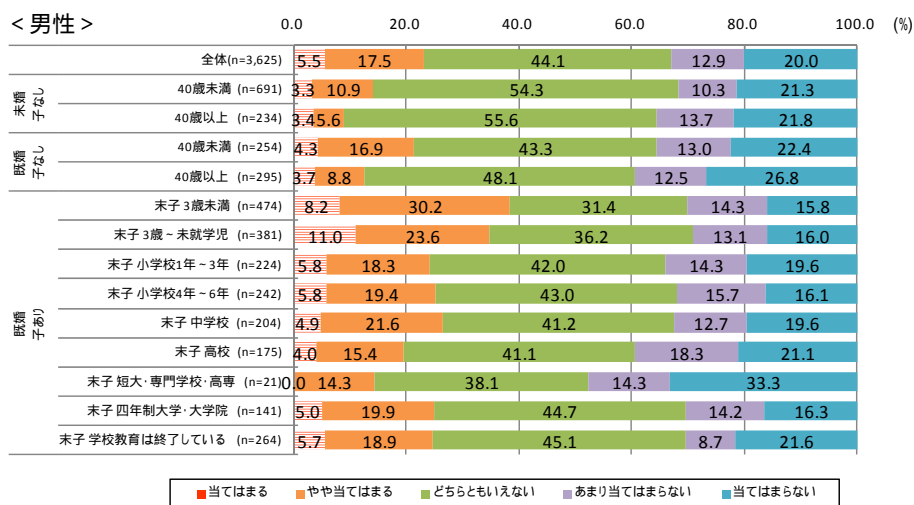
「今の職場は、育児より仕事を優先させるのが当然という雰囲気がある」  
(ライフステージ別)



職場の状況について（ライフステージ別）

「今の職場は、自分が子育て中であることについて理解がある」をライフステージの男女別でみると、当てはまる割合（「当てはまる」と「やや当てはまる」の計）は、男性に比べて女性のほうが極めて高くなっている。

「今の職場は、自分が子育て中であることについて理解がある」  
（ライフステージ別）

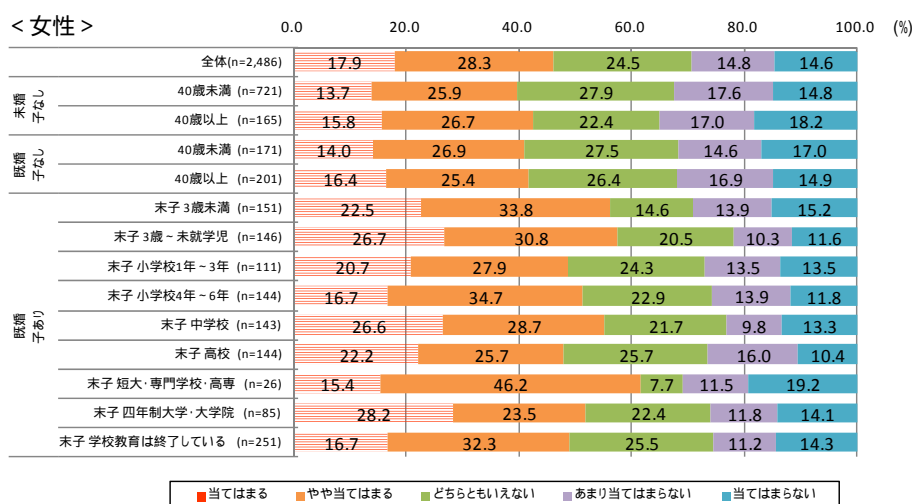
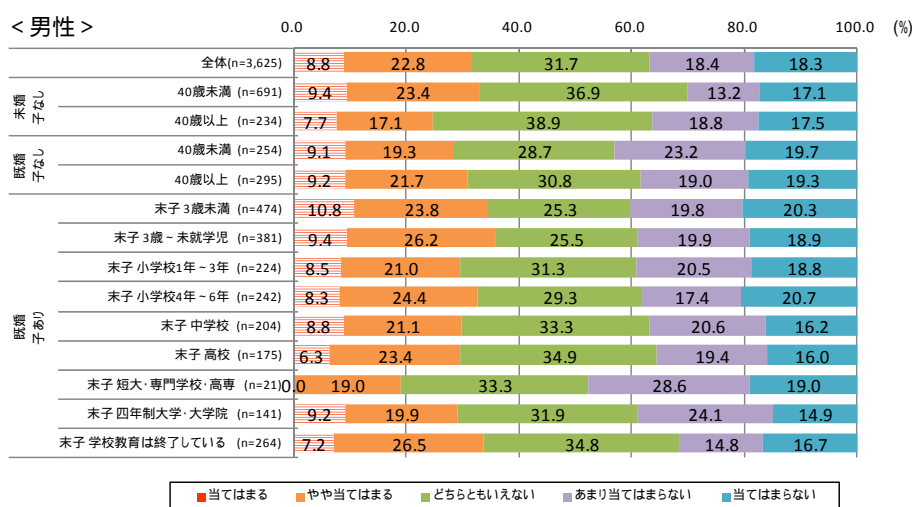


n 数が 50 未満のため参考値

職場の状況について(ライフステージ別)

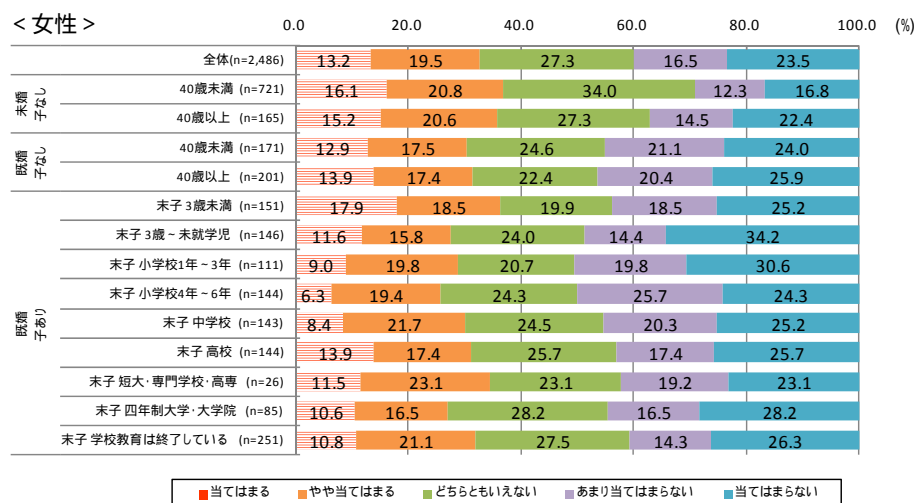
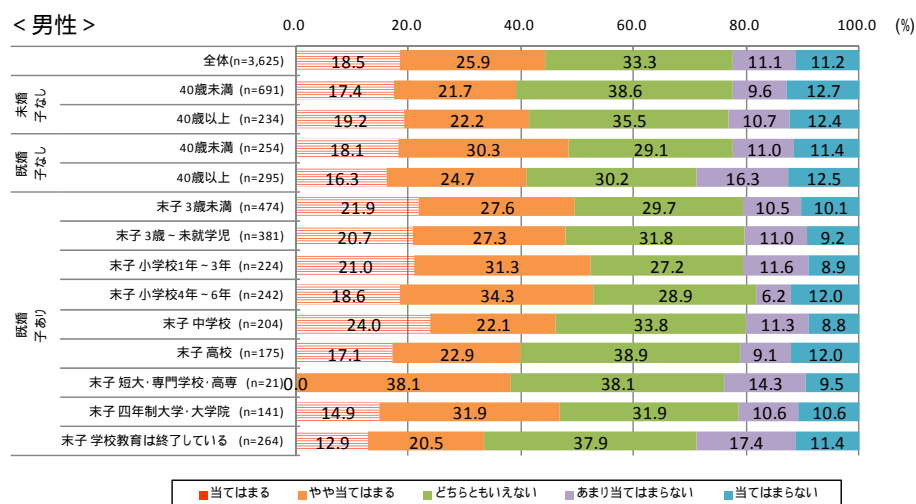
「今の職場では、自分が仕事を休んだ場合でも他の人が対応できる」をライフステージの男女別でみると、当てはまる割合(「当てはまる」と「やや当てはまる」の計)は、全体的に男性より女性のほうが高くなっており、特に女性の既婚子あり/末子3歳~未就学児で57.5%、既婚子あり/末子3歳未満で56.3%と高くなっている。

「今の職場では、自分が仕事を休んだ場合でも他の人が対応できる」  
(ライフステージ別)



「自分では解決できない理由によって、残業しなくてはならないことがある」をライフステージの男女別でみると、当てはまる割合（「当てはまる」と「やや当てはまる」の計）は、全体的に男性の方が高くなっている。また、既婚子ありの末子3歳～未就学児、末子小学校1年～3年、末子小学校4年～6年では、男女差が20%以上あり男性の方が当てはまる割合が極めて高くなっている。

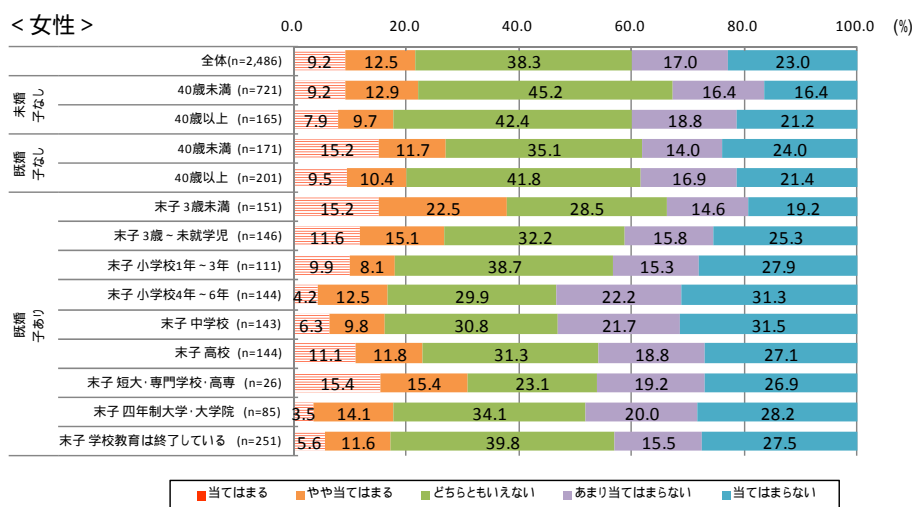
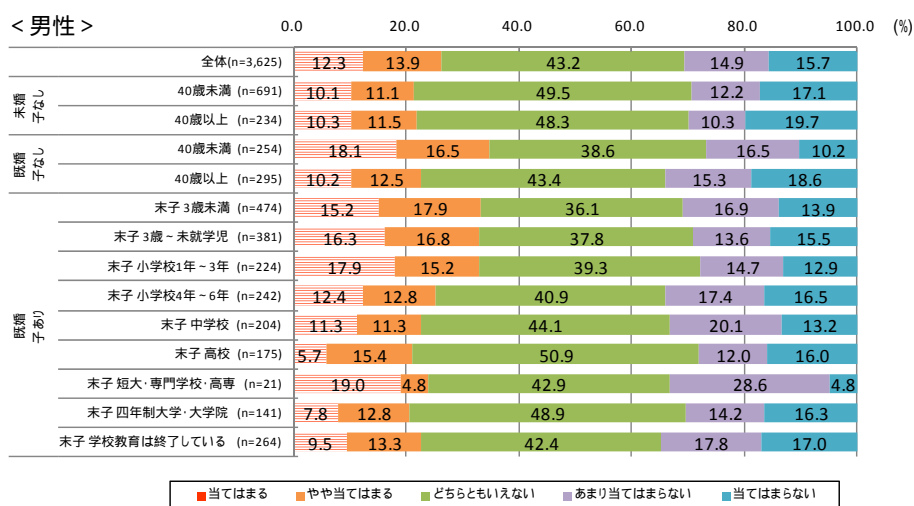
「自分では解決できない理由によって、残業しなくてはならないことがある」（ライフステージ別）



職場の状況について(ライフステージ別)

「育児休業や子の看護休暇を取得したり、育児を理由に有給休暇を取得すると、自分の仕事への評価が下がるおそれがある」をライフステージの男女別で見ると、当てはまる割合(「当てはまる」と「やや当てはまる」の計)は、女性の既婚子あり/末子3歳未満が37.7%と最も高くなっている。既婚子あり/末子小学校1年~3年では、当てはまる割合は、男性で33.1%と女性の18.0%より高くなっている。

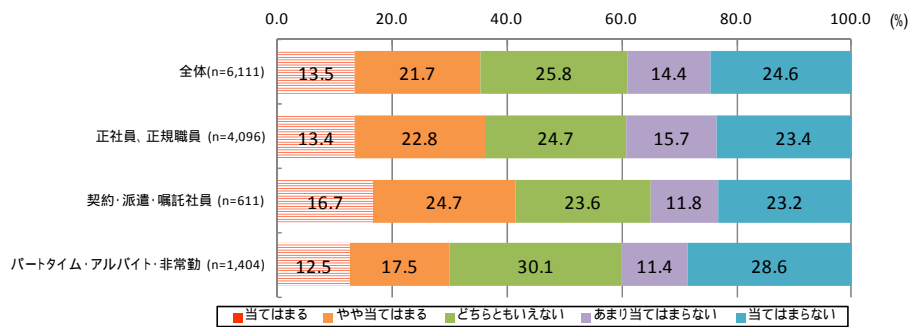
「育児休業や子の看護休暇を取得したり、育児を理由に有給休暇を取得すると、自分の仕事への評価が下がるおそれがある」  
(ライフステージ別)



職場の状況について(就業形態別)

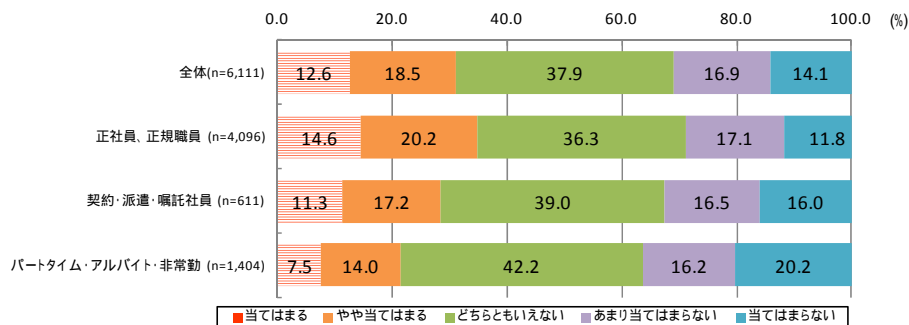
「今の職場は、年次有給休暇を取りやすい雰囲気がある」を就業形態別でみると、当てはまる割合(「当てはまる」と「やや当てはまる」の計)は、契約・派遣・嘱託社員で41.4%と最も高く、次いで正社員・正規職員で36.2%となっている。

「今の職場は、年次有給休暇を取りやすい雰囲気がある」  
(就業形態別)



「今の職場は、育児より仕事を優先させるのが当然という雰囲気がある」を就業形態別でみると、当てはまる割合(「当てはまる」と「やや当てはまる」の計)は、正社員・正規職員で34.8%と最も高く、次いで契約・派遣・嘱託社員で28.5%となっている。

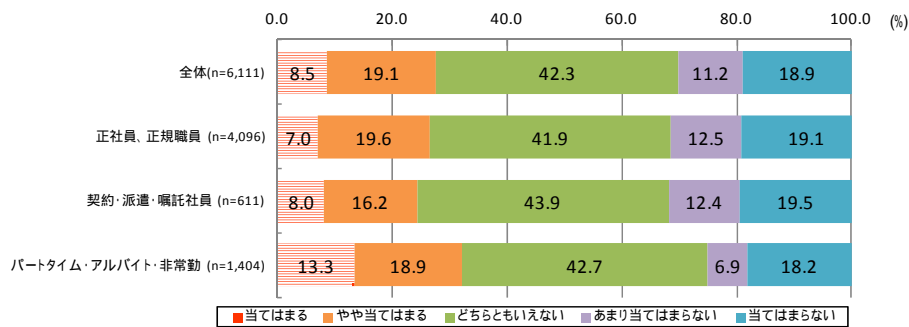
「今の職場は、育児より仕事を優先させるのが当然という雰囲気がある」  
(就業形態別)



職場の状況について（就業形態別）

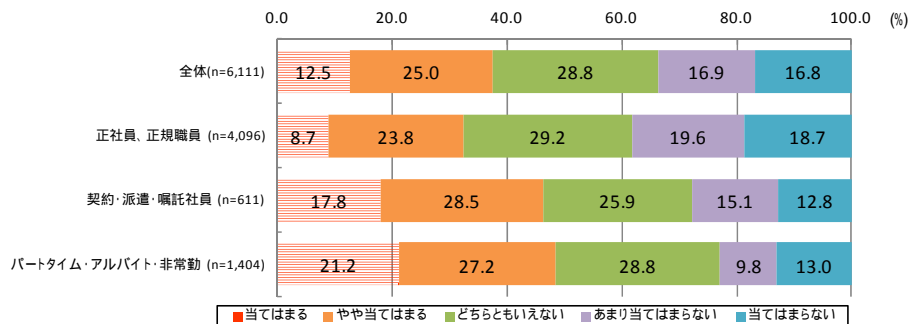
「今の職場は、自分が子育て中であることについて理解がある」を就業形態別でみると、当てはまる割合（「当てはまる」と「やや当てはまる」の計）は、パートタイム・アルバイト・非常勤で 32.2%と最も高く、次いで正社員・正規職員で 26.6%となっている。

「今の職場は、自分が子育て中であることについて理解がある」  
（就業形態別）



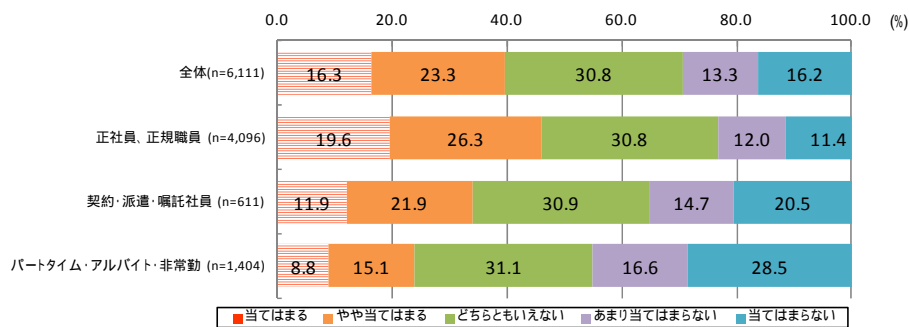
「今の職場では、自分が仕事を休んだ場合でも他の人が対応できる」を就業形態別でみると、当てはまる割合（「当てはまる」と「やや当てはまる」の計）は、パートタイム・アルバイト・非常勤で 48.4%と最も高く、次いで契約・派遣・嘱託社員で 46.3%となっている。

「今の職場では、自分が仕事を休んだ場合でも他の人が対応できる」  
（就業形態別）



「自分では解決できない理由によって、残業しなくてはならないことがある」を就業形態別でみると、当てはまる割合(「当てはまる」と「やや当てはまる」の計)は、正社員・正規職員で45.9%と最も高く、次いで契約・派遣・嘱託社員で33.8%となっている。

「自分では解決できない理由によって、残業しなくてはならないことがある」  
(就業形態別)



「育児休業や子の看護休暇を取得したり、育児を理由に有給休暇を取得すると、自分の仕事への評価が下がるおそれがある」を就業形態別でみると、当てはまる割合(「当てはまる」と「やや当てはまる」の計)は、正社員・正規職員で27.9%と最も高く、次いで契約・派遣・嘱託社員で22.4%となっている。

「育児休業や子の看護休暇を取得したり、育児を理由に有給休暇を取得すると、自分の仕事への評価が下がるおそれがある」  
(就業形態別)

